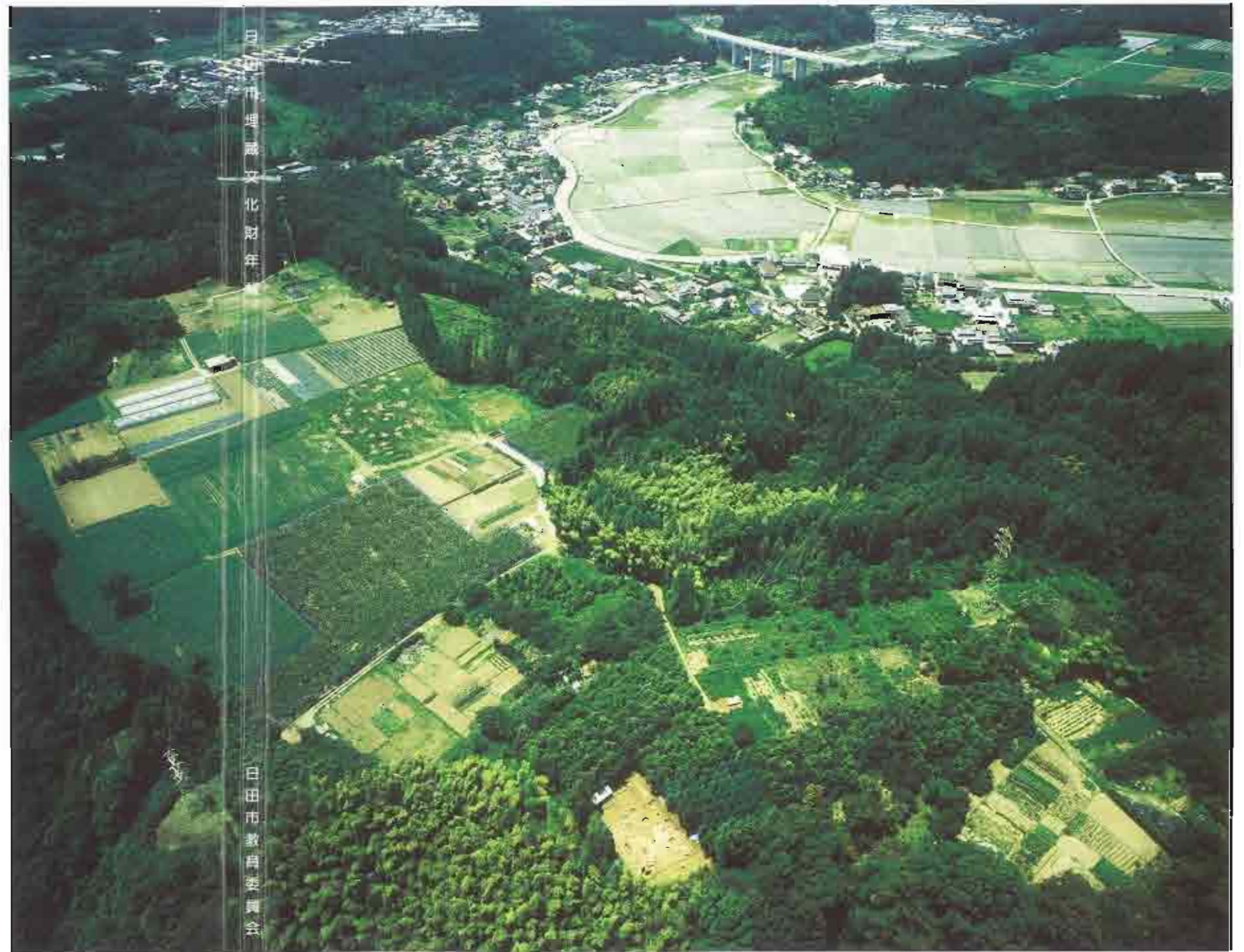


平成7年度(1995年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成7年度



発刊にあたって

『日田市史』が刊行されて早7年が過ぎようとしています。その間には発掘調査によって新たな埋蔵文化財の発見が相次ぎ、年を重ねる毎に日田市の歴史も詳らかになってまいりました。

その中でも昨年度に発掘されました吹上遺跡からは、これまで県内では例のない、数々の素晴らしい品々を納めていた墳墓群が発見され、日田盆地の弥生時代の首長の墓として話題をあつめました。

このような郷土の誇りとも言える貴重な文化財が、開発者のご理解を得まして、永久的に保存されるに至りましたことは誠によろこばしいことでもあります。

吹上遺跡をはじめ、平成7年度の調査の成果を記した本書を多くの方々にご高覧いただき、今後も日田市の埋蔵文化財保護行政になお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成9年3月

日田市教育委員会

教育長 加藤 正 俊

例 言

- 1、本書は平成7年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2、本書には大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部もあわせて掲載している。
- 3、発掘調査等の資料については、市役所別館埋蔵文化財センター（埋蔵文化財整理作業室）において整理・保管・展示している。
- 4、受領図書は平成7年4月1日から平成8年3月31日までの間に日田市教育委員会・日田市立博物館に寄贈された書物のうち、埋蔵文化財に関するもののみ掲載している。
- 5、表紙の写真は吹上遺跡6次調査地点の空中写真と同遺跡の1号木棺墓から出土した銅剣・青銅製把頭飾である。
- 6、本書の執筆は担当者が分担して行い、編集は行時志郎が行った。

目 次

発刊にあたって

I 平成7年度埋蔵文化財調査事業	
1) 埋蔵文化財センターの設置	2
2) 平成7年度の埋蔵文化財調査の概要	3
3) 発掘調査・確認調査の概要	6
4) 試掘調査・立会調査の概要	28
II 平成7年度埋蔵文化財普及・啓発事業	
1) 現地説明会の開催	38
2) 講演会等の開催	39
3) 展示会の開催	40
4) 広報活動	41
5) 刊行物	42
III 受領図書一覧	

I 平成7年度埋蔵文化財調査事業

1) 埋蔵文化財センターの設置

2) 平成7年度の埋蔵文化財調査の概要

3) 発掘調査・確認調査の概要

4) 試掘調査・立会調査の概要

1) 埋蔵文化財センターの設置

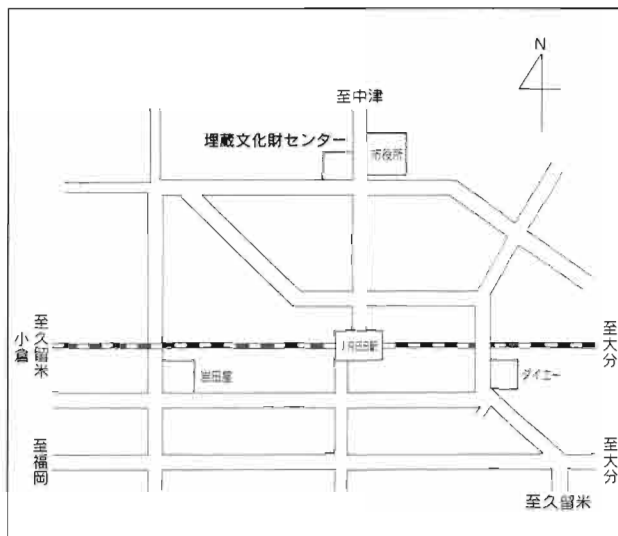
日田市では、市内より出土した埋蔵文化財を整理・保管・展示する施設として、平成8年6月15日に、日田市埋蔵文化財センター（埋蔵文化財整理作業室）を開設した。

これまで整理・保管については市役所別室（旧養護学校建物）で、また展示については日田市立博物館で行っていたが、このほど総合庁舎の移転に伴い、市役所向いの別館（旧大分県総合庁舎建物）を利用して行うことになった。

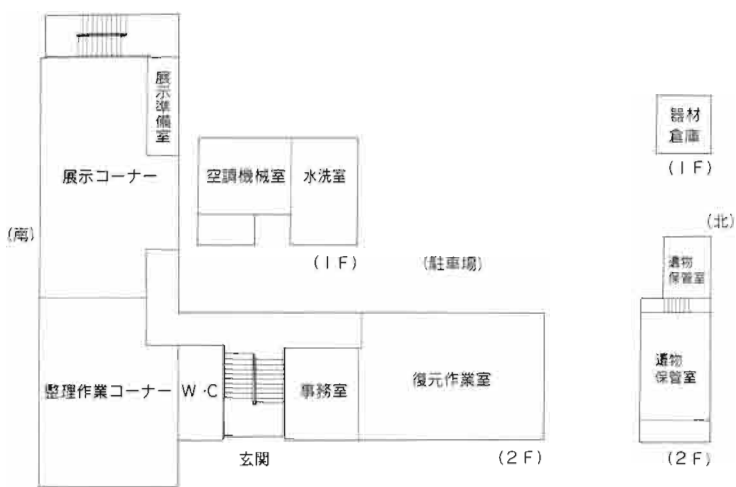
センターでは、遺物の洗浄を別棟に水洗室を設けて行い、その他の遺物の注記・接合・復元や展示を別館2階で行っている。

展示コーナーでは、吹上遺跡、小迫辻原遺跡、ガランドヤ古墳、法恩寺山古墳などの市内の著名な遺跡より出土した遺物を展示している。また展示コーナーの一角には、市内で調査が行われた遺跡に関する報告書や関連する資料を見学者が参考にできるように図書コーナーを設けている。

埋蔵文化財センター全体の延床面積は1,263㎡、事務室91㎡、展示コーナー387㎡、整理作業コーナー339㎡、復元作業室312㎡。入館日は、土、日、祭日、年末年始を除き、入館時間は午前9時から午後4時半まで。入館無料。



埋蔵文化財センター位置図



埋蔵文化財センター配置図



展示コーナーの様子



整理作業の様子

2) 平成7年度の埋蔵文化財調査の概要

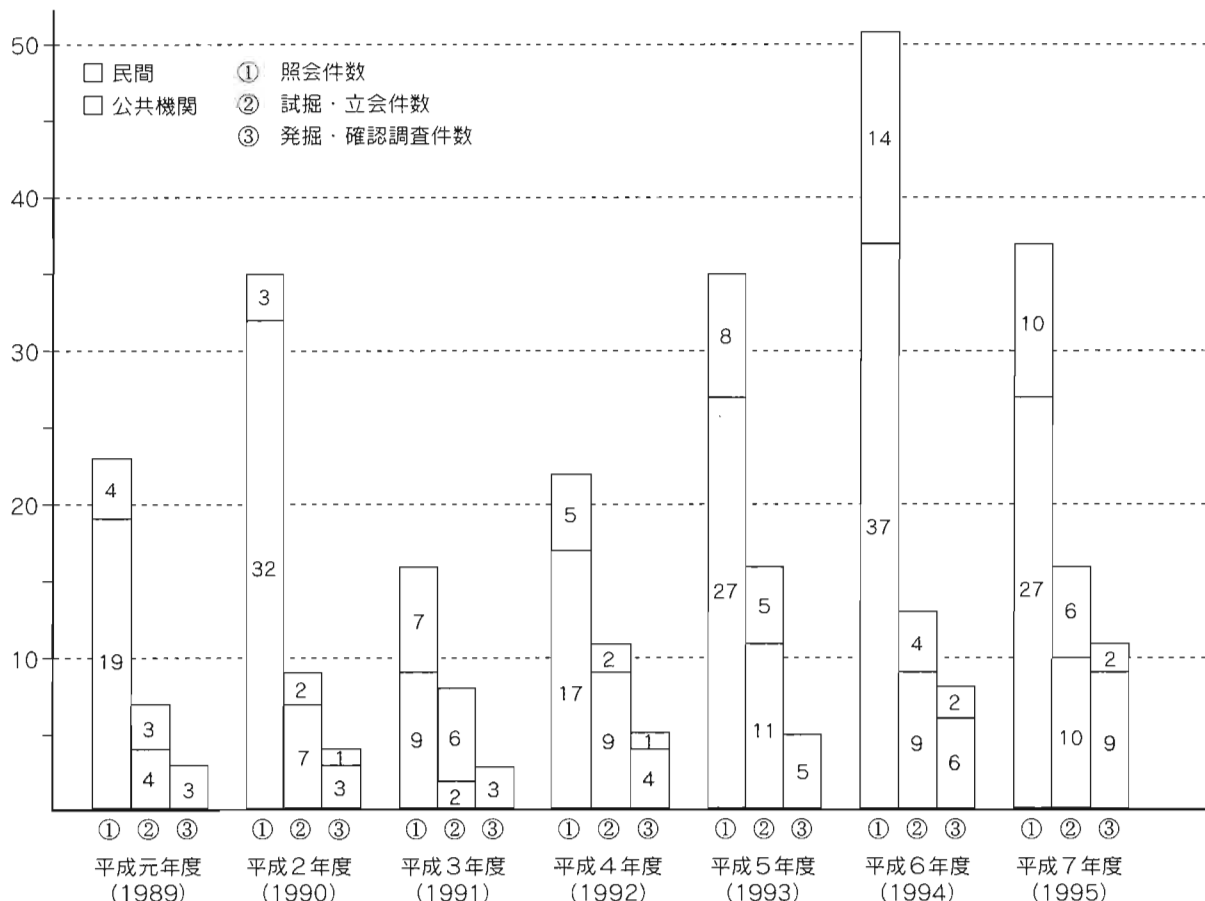
本年度は、昨年度に引き続き専門職員が一人増え調査体制が整備され、専門職員4名、嘱託1名となった。

公共事業関係では、ウットコンビナート建設（有田塚ヶ原遺跡群）に伴う発掘調査を継続して行ったほか、都市計画街路事業市道城町高瀬線建設（会所宮遺跡）・亀川山田線建設（徳瀬遺跡）や日隈保育所建設（村前遺跡）などに伴う調査を行った。また、民間では宅地造成などによる開発が急増し、10件の照会文が提出された。その内訳は宅地造成が6件、店舗・病院建設が2件、サッカー場建設が1件、鉄塔建設が1件である。このうち試掘・立会調査は6件、発掘調査は2件（吹上遺跡・郷四郎遺跡）である。

本年度の調査で特筆すべきだったのは、鉄塔建設に伴い行った吹上遺跡6次調査で、市内では初めてとなる大型成人用甕棺墓を主体とする弥生時代中期の墳墓群が発見され、墓坑内からは銅戈や銅剣、鉄剣などの武器類のほか、南海産のゴホウラやイモガイ製の腕飾類、400点を越えるガラス製管玉などの豪華な副葬品が出土し、これまでわからなかった日田盆地の弥生時代の首長墓の様子が明らかになったことは重要な成果であった。このことは、開発者のご理解を得ることとなり、鉄塔建設予定地の変更と調査地点が県指定史跡として後世まで保存されることになった。日田市の埋蔵文化財行政を振り返る中で大変意義深いことである。

このほか、平成6年度からの継続調査となった有田塚ヶ原遺跡群のうち平島横穴墓群は、平成8年3月で調査を終え、計86基の横穴墓の存在が明らかとなり、県内でも例のない横穴墓全体の調査例となった。今後の整理作業によって様々な事実が明らかとなることが期待される。石ヶ迫遺跡で発見された奈良時代の建物群や水田遺構は当該時期の開発の動向を知る上で今後の調査の重要な参考となるとおもわれる。

表1 埋蔵文化財の調査件数推移グラフ



また市内で大分県教育委員会が行った調査は、県営朝日ヶ丘住宅建設（朝日ヶ丘遺跡A地点）、県道大鶴熊取線建設（三和教田遺跡C地点）の2遺跡である。このうち三和教田遺跡C地点からは縄文時代後期から晩期にかけての流路跡が発見され、中から土偶が出土した。頭部を除けばほぼ完形品であり、市内の土偶の出土例としては隈山遺跡、牧原遺跡について3例目となった。またこの地点より小高い位置にある三和教田遺跡B地点では、弥生時代の環濠集落や古墳時代の集落が発見されているほか、B地点より300mほど北側には弥生時代や古墳時代の土坑や溝が確認されている三和教田遺跡A地点があり、三和教田遺跡周辺には縄文から古墳時代にかけての各時代の遺構が存在していたと見られ、今後この地区周辺の開発については注視する必要がある。

表2 平成7年度市内の調査遺跡一覧表

日田市教育委員会の調査（1～11発掘調査・確認調査）（12～22試掘調査・立会調査）

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
1	吹上遺跡	大字小迫字吹上原	鉄塔建設	180㎡	0508～0129	
2	平島横穴墓群	大字東有田字神田	造成工事	8,000㎡	0508～0328	
3	郷四郎遺跡	大字十二町字郷四郎	店舗建設	1,500㎡	0623～0728	
4	石ヶ迫遺跡	大字東有田字石ヶ迫	造成工事	13,000㎡	0804～0328	
5	史跡咸宜園跡	字南豆田字中城	史跡整備	400㎡	0108～0329	継 続
6	クビリ遺跡	大字東有田字クビリ	造成工事	1,500㎡	0111～0328	
7	村前遺跡	大字庄手字村前	保育所建設	1,200㎡	0208～0302	
8	徳瀬遺跡（C区）	大字友田字徳瀬	市道建設	200㎡	0213～0223	
9	有田塚ヶ原遺跡	大字東有田字塚ヶ原	造成工事	13,000㎡	0215～0328	
10	祇園原遺跡	大字東有田字祇園原	造成工事	8,500㎡	0307～0328	継 続
11	会所宮遺跡（C区）	大字田島字中ノ手	市道建設	750㎡	0311～0329	継 続
12	山田原遺跡	大字渡里字池ノ迫	林道建設	20㎡	1117～1121	
13	三河遺跡	大字小野字樋ノ本	林道建設	20㎡	1122～1127	
14	町野原遺跡	大字求来里字町の原	農道建設	50㎡	0227	
15	東寺原遺跡	大字日高字東寺原	農道建設	50㎡	0229	
16	元宮原遺跡	大字求来里字元宮	農道建設	20㎡	030	
17	徳瀬遺跡	大字友田字徳瀬	ポンプ場建設	4㎡	0306	
18	赤迫遺跡	大字北豆田字赤迫	植林	2,000㎡	0325～0327	継 続
19	片山遺跡	大字友田字下原	鉄塔建設	240㎡	0906	
20	草場第1遺跡	大字渡里字後迫	造成工事	70㎡	0912	
21	日田条里遺跡(田竹地区)	大字三和字田竹	宅地造成	40㎡	1221	
22	中釣地区	大字庄手字中釣	宅地造成	40㎡	0228	

大分県教育委員会の調査（発掘調査）

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
23	朝日ヶ丘遺跡(A地点)	大字小迫字小迫	住宅建設	2,700㎡	0729～1128	継 続
24	三和教田遺跡(C地点)	大字三和字貞清	県道建設	3,800㎡	1129～0310	



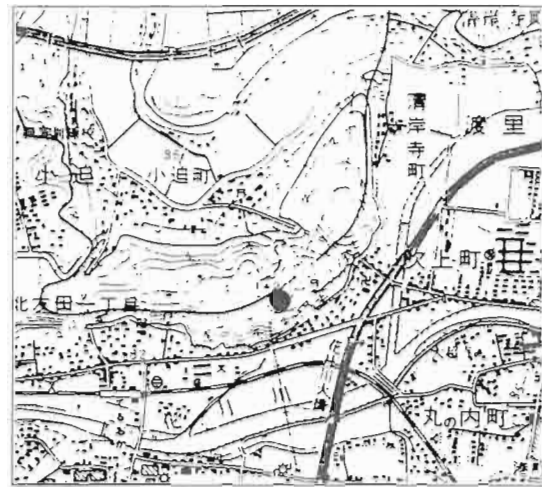
市内の調査遺跡位置図(1/50,000) ●市教育委員会 ■県教育委員会

3) 発掘調査・確認調査の概要

1 吹上遺跡 (FKA)

ふきあげ
所在地 大字小迫字吹上原193-2
調査期間 950508~960129
開発面積 400㎡
調査面積 180㎡
調査費 1,135千円(原因者負担)
2,811千円(国庫補助)
調査年次 6年次
遺跡の時代 弥生・平安時代
遺跡の種類 貯蔵穴・甕棺・木棺墓、経塚
担当者 土居和幸・永田裕久

—鉄塔建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部、標高約140mの通称吹上原台地上に位置する。台地上では、これまで市教委により5回の調査が行われており、竪穴住居跡・貯蔵穴・墳墓等の遺構が確認されている。周辺の台地上には、小迫辻原遺跡、草場第2遺跡などが点在している。

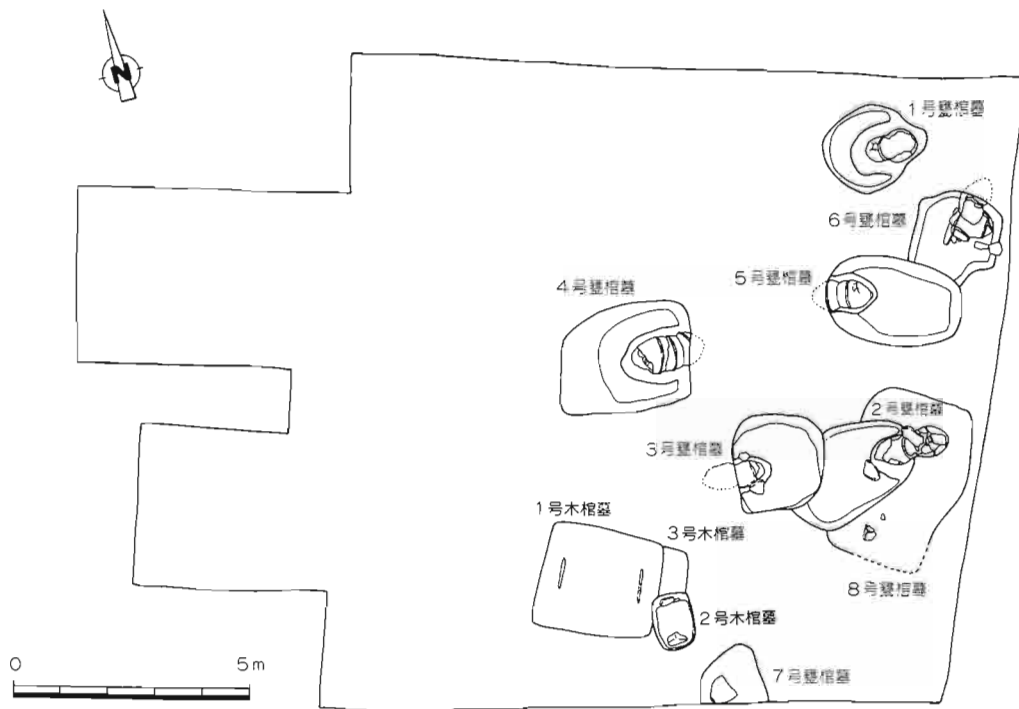
調査の概要

開発面積約400㎡の内、鉄塔の建設される面積約180㎡を対象に調査区を設定した。主要遺構として、弥生前期末～中期前半の貯蔵穴4基、中期後半の墳墓群11基、平安時代後期の経塚1基が確認された。なかでも甕棺墓8基・木棺墓3基によって構成される中期の墳墓群からは、数多くの副葬品が確認された。11基の墳墓群のうち注目されるのが、調査区の中央に位置する4号甕棺墓である。合せ口の成人用甕棺であるが、3個の甕を組み合わせて被葬室と副葬室とに分ける構造を呈している。副葬室には銅戈1点・鉄剣1点が被葬室には男性人骨に伴ってゴホウラ製貝輪15点・勾玉1点・管玉約490点以上の副葬品が確認された。この他にも、1号木棺墓からは銅剣・把頭飾、2号甕棺墓からは棺外より銅戈、5号甕棺墓には女性人骨に伴い勾玉1点・イモガイ製貝輪17点の副葬品が確認されている。

まとめ

今回の調査で注目される弥生時代中期後半代(立岩期)の墳墓群は、集落から離れ台地上でも高所の位置に構成され、豊富な副葬品等を有するなどの特徴から吹上集落内における特定集団墓と見られる。中でも副葬品の質や量、墓壙の規模が他の墳墓より卓越している4号甕棺墓は有力な日田地域の首長墓と考えられる。また、5号甕棺墓の貝輪は被葬者右腕の肘から指先にかけて装着されており、その出土状況から死に装束的な着装と思われる。

遺跡は幸いにも開発主の理解により保存され、平成8年3月に県史跡に指定された。



墳墓群配置図 (1/160)



4号甕棺墓出土状況

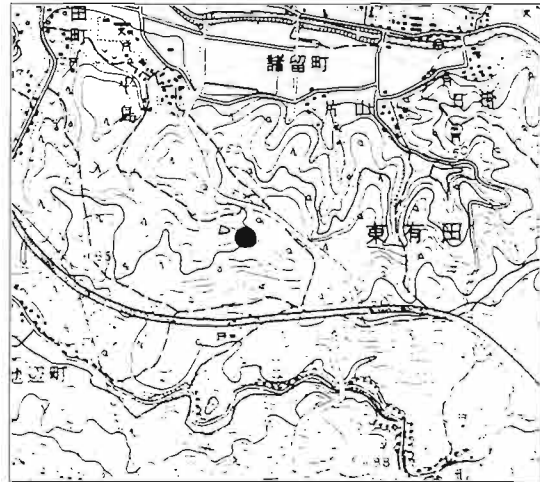


5号甕棺墓人骨出土状況

2 ひらしまよこあな ぼぐん 平島横穴墓群 (HSY)

所在地 大字東有田字神田2889ほか
調査期間 950508～960328
開発面積 (400,000㎡)
調査面積 8,000㎡
調査費 32,460千円(原因者負担)
調査年次 2年次
遺跡の時代 古墳時代
遺跡の種類 横穴墓
担当者 行時志郎・松下桂子・森山敬一郎
※ () はウッドコンビナート全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の有田川流域沿いの谷状沖積地南部に広がる山地部を浸食して形成された谷地の最深部に存在する。この谷の主に北側斜面を利用して横穴墓群が築かれていた。

調査の概要

昨年度に行った以外の横穴墓の調査をすべて実施した。横穴墓は計86基となり、この調査の結果、以下のことが確認された。

横穴墓は6世紀中頃(古段階)と6世紀後半～7世紀前半(新段階)の二時期に分かれる。古段階では計8基が谷の高い位置に築かれ、玄室に敷石がなく、壁面などには赤色顔料の塗布が見られる。東部の単独で築かれた1基からは直刀や刀子などが出土した。

新段階では78基が低い位置に密集して築かれている。残りのよい北部から東部にかけては、一つの玄室に対して1基ずつの墓道が存在し、またそれらは4～5基単位でほとんど同一レベルでまとまっており、全体でいくつかのグルーピングが可能である。閉塞石周辺では多数の遺物が確認され、追善供養のあったことが傾向として伺える。閉塞石は凝灰岩と安山岩のものがあるが、いずれも平坦な一枚石に加工を施している。玄室内には1ないし2の段差を設け羨道部との境界とし、屍床部は横穴によって異なるが、拳大から人頭大までの敷石を並べている。谷部に形成されたこともあって、人骨の残存状況は極めて悪かったが、墓道における埋土の層位の確認の結果、多い所で計6回の追葬が行われていたことが確認されている。副葬品としては鉄刀や鉄鏃、弓具、馬具などの鉄器類が目立ち、装身具として耳環、銅釧などの青銅器類、勾玉、管玉、ガラス小玉などの玉類も豊富に出土している。また供献具として須恵器、土師器が屍床部入り口に並べて置かれている状況が多数の横穴墓で確認されている。

まとめ

新段階では玄室の形や墓道の造り方に共通点があり、全体に規格性が見受けられる。また谷の入り口で5、6世紀の竪穴住居跡などが確認されている平島遺跡との関係が注目される。



遺跡全景



遺跡近景



墓道遺物
出土状況



玄室遺物出土状況



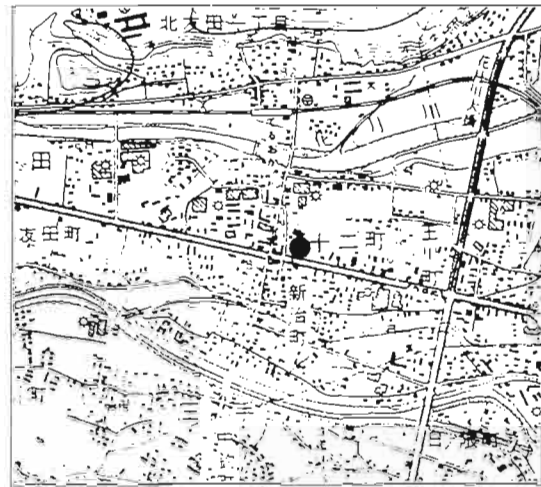
遺構配置図 (1/600)

3 郷四郎遺跡 (H J G)

こうしろう

所在地 大字十二町字郷四郎463-1ほか
調査期間 950623~950728
開発面積 5,276.97㎡
調査面積 1,500㎡
調査費 1,365千円(原因者負担)
調査年次 1年次
遺跡の時代 弥生・古墳時代、古代~中世
遺跡の種類 溝、水田跡、包含層
担当者 松下桂子

—店舗建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

日田盆地の中心部、花月川と庄手川に挟まれた沖積地に位置する。この沖積地はほぼ全域が条里跡として遺跡地図に記載されているが、その範囲内における過去の試掘・発掘調査では条里跡として明確に確認された例はない。その一方で、郷四郎遺跡に限れば、遺跡の近辺には「大縄手」という、条里に関連する字名が現在も残っている。

調査の概要

店舗建設に先立ち、平成7年5月29日に立会調査を行ったところ、溝と中世の水田層を検出し土器や染付などの遺物が出土したため、本調査を実施することになった。

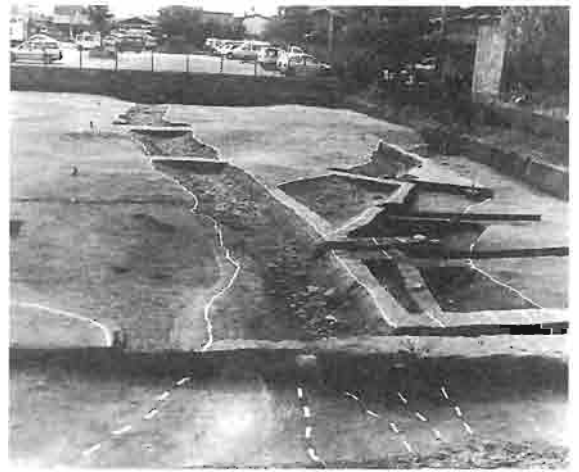
本調査では、弥生時代の包含層と、古墳時代の溝1条、奈良時代の溝3条、中世(11~14世紀)の溝1条、奈良~現代までの水田跡が検出された。調査前の現況は水田であったが、河川に近い地点であるため、耕作土の下は砂層および人頭大の河原石を多量に含む氾濫原が広がっており、不安定な土地であることを露呈した。この氾濫原は弥生時代の土器を含み、包含層としてとらえることができる。その立地から遺構・遺物ともに残存状況が悪く、特に遺物は面積の割に少量であったが、中世の溝から出土した白磁碗片は全国的にみても出土例が少ないタイプのもので、注目される。

まとめ

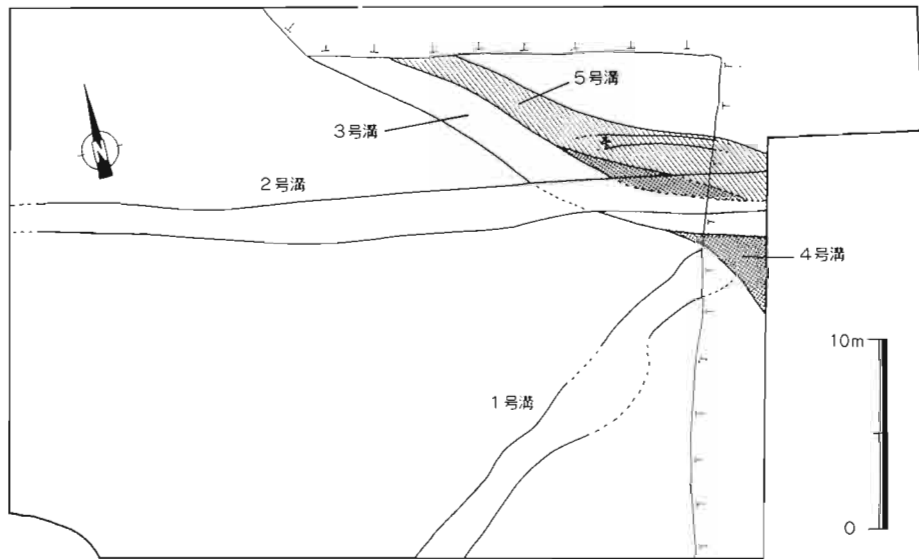
今回の調査では古墳時代~中世にわたる溝5条が検出された。これらの溝と調査区周辺の地籍図を照合すると、中世の溝が地籍図の地割線とほぼ一致し、さらに字名「大縄手」とも方向が合致することがわかった。つまり現在地図などによって観察される「条里地割」は、条里制が施行された時期のものではなく中世前後に行われた土地区画の名残である可能性が高いのである。ただし、このことによって日田における条里制の存在が必ずしも否定されるものではなく、奈良時代の3条の溝が条里制に基いて掘られた地割であったのに、後世方向修正が行われたとも考えられる。今後の周辺の調査を待ちたい。



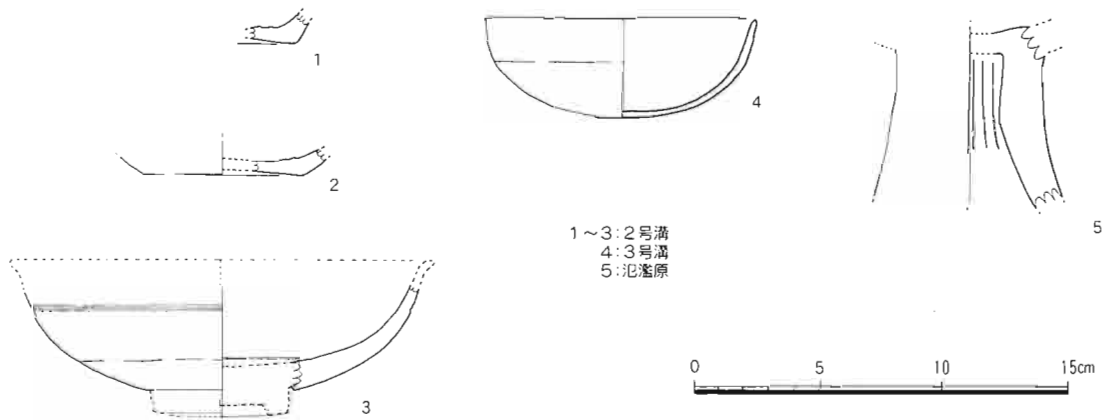
調査区全景



溝の切り合い



遺構配置図 (1/100)

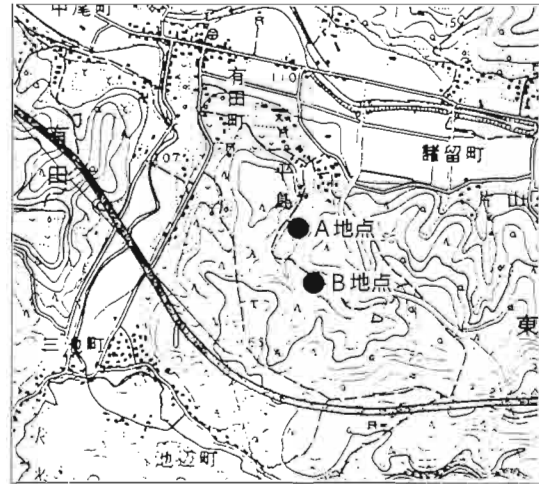


遺物実測図 (1/3)

4 いしがさ 石ヶ迫遺跡 (IGS)

所在地 大字東有田字石ヶ迫2846ほか
調査期間 950804～960328
開発面積 (400,000㎡)
調査面積 13,000㎡
調査費 10,459千円(原因者負担)
調査年次 1年次
遺跡の時代 縄文・古墳時代、奈良～現代
遺跡の種類 集石遺構、集落、溝、水田跡
担当者 松下桂子
※ () はウッドコンビナート全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田市東部、有田川沿いに広がる沖積地から南の丘陵に平島横穴墓群に向かって入り込む谷に位置する。現況では水田であり、斜面は畑地・栗林として利用されている。

調査の概要

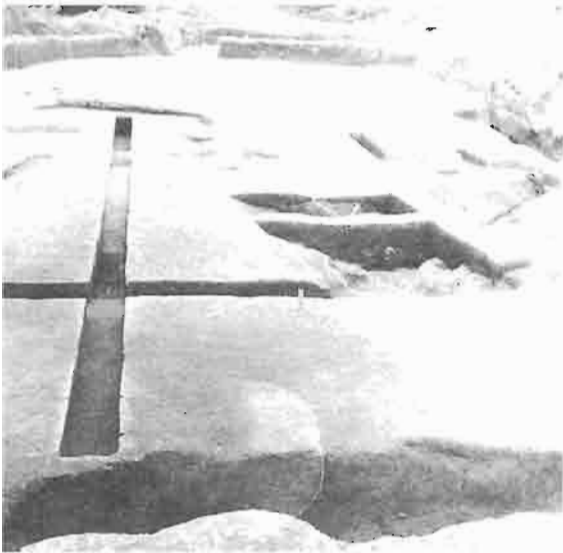
谷のほぼ全体に遺跡が確認され調査範囲が広汎になったため、谷の入り口をA地点、奥部をB地点とした。A地点では奈良時代の溝状遺構3条と、奈良～現代の水田址が確認された。遺物は少なく、須恵器・土師器のほか、鉄滓の付着したフイゴの羽口片が1点出土しており注目される。

B地点では奈良～平安時代の総柱建物6軒・掘立柱建物8軒・竪穴住居8基のほか、縄文時代早期の集石5基、古墳時代中期の竪穴住居1基、奈良～現代の水田跡が確認されている。

まとめ

B区において、谷の北側斜面に総柱建物・掘立柱建物・竪穴住居からなる集落と、その眼下に広がる水田跡が発見され、水田跡の最下層と集落との時期が一致したことから、この遺跡は奈良～平安時代における谷部の水田開発の拠点集落であったと考えられる。この谷の入り口にある平島遺跡が古墳時代の集落であることを併せて考慮すると、有田地区では古墳時代に有田川周辺の沖積地が開発され、奈良時代になるとより多くの耕作地を求めて河川から離れた谷部に進入してきたものと思われる。

また、縄文時代早期の集石については、5基ともに構成する石が拳大～人頭大であること、熱を受けてかなり赤変していること、集石下に掘込みを有しないことなど共通性がみられ、これらの特徴から食物の調理に使用されたと考えられる。特に4号集石は石が立った状態で検出され、残存状況が良好である。市内では長者原遺跡、大部遺跡に続き3例目であり、縄文時代の遺構そのものが少ない日田盆地においては貴重な発見となった。



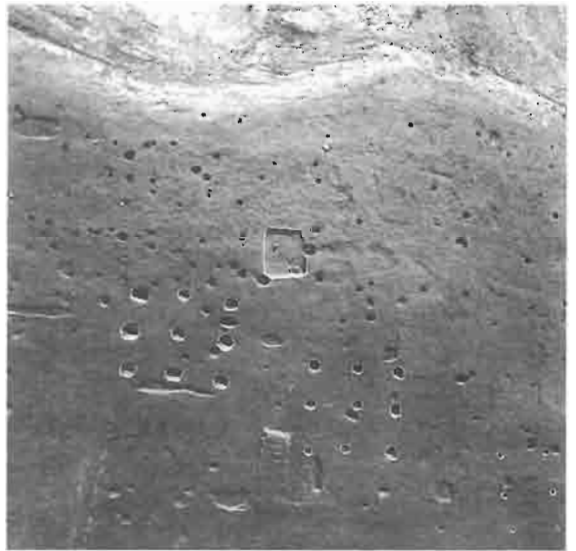
A地点発掘調査状況



A地点溝土層



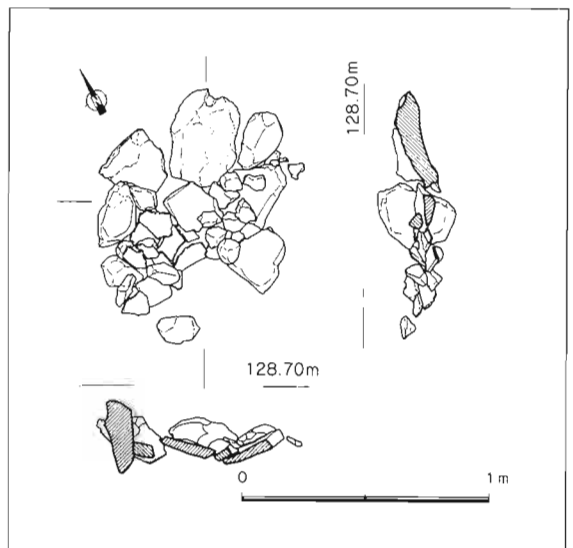
B地点全景



B地点総柱建物・竪穴住居跡



B地点4号集石遺構

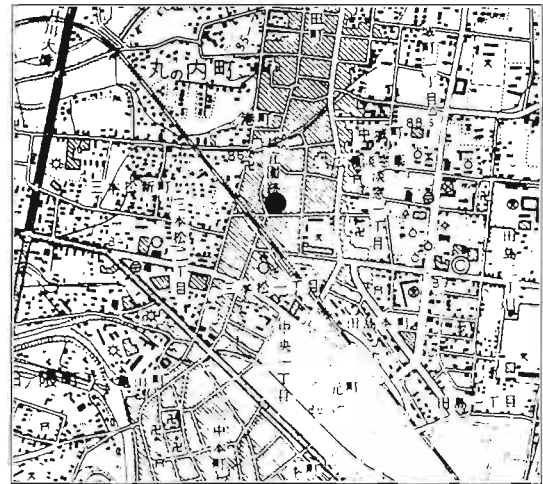


B地点4号集石遺構実測図 (1/20)

5 史跡咸宜園跡 (KAG)

—史跡整備に伴う確認調査—

所在地 大字南豆田字中城100-1
調査期間 960108～960329
開発面積 ———
調査面積 400㎡
調査費 4,062千円(国庫補助)
調査年次 4年次
遺跡の時代 近世～近代
遺跡の種類 塾跡
担当者 土居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

史跡咸宜園跡は市街地のほぼ中心、江戸時代に天領として栄えた豆田町の南に位置する。咸宜園跡は文化14年に広瀬淡窓が開いた私塾として知られ、平成7年7月23日に国史跡に指定されている。塾の最盛期には道を挟んだ東側には講堂・東塾・秋風庵、西側には南塾などの施設が配置され、塾を構成していた。現在、史跡内には秋風庵、遠思楼、井戸といった建造物が現存している。

調査の概要

調査は平成5年度から着手した秋風庵の保存修理事業の一環として、史跡整備に伴う遺構確認調査として実施している。4年次にあたる今回の調査目的は、東側の塾を構成していた中心建物である講堂や東塾といった遺構の確認であった。

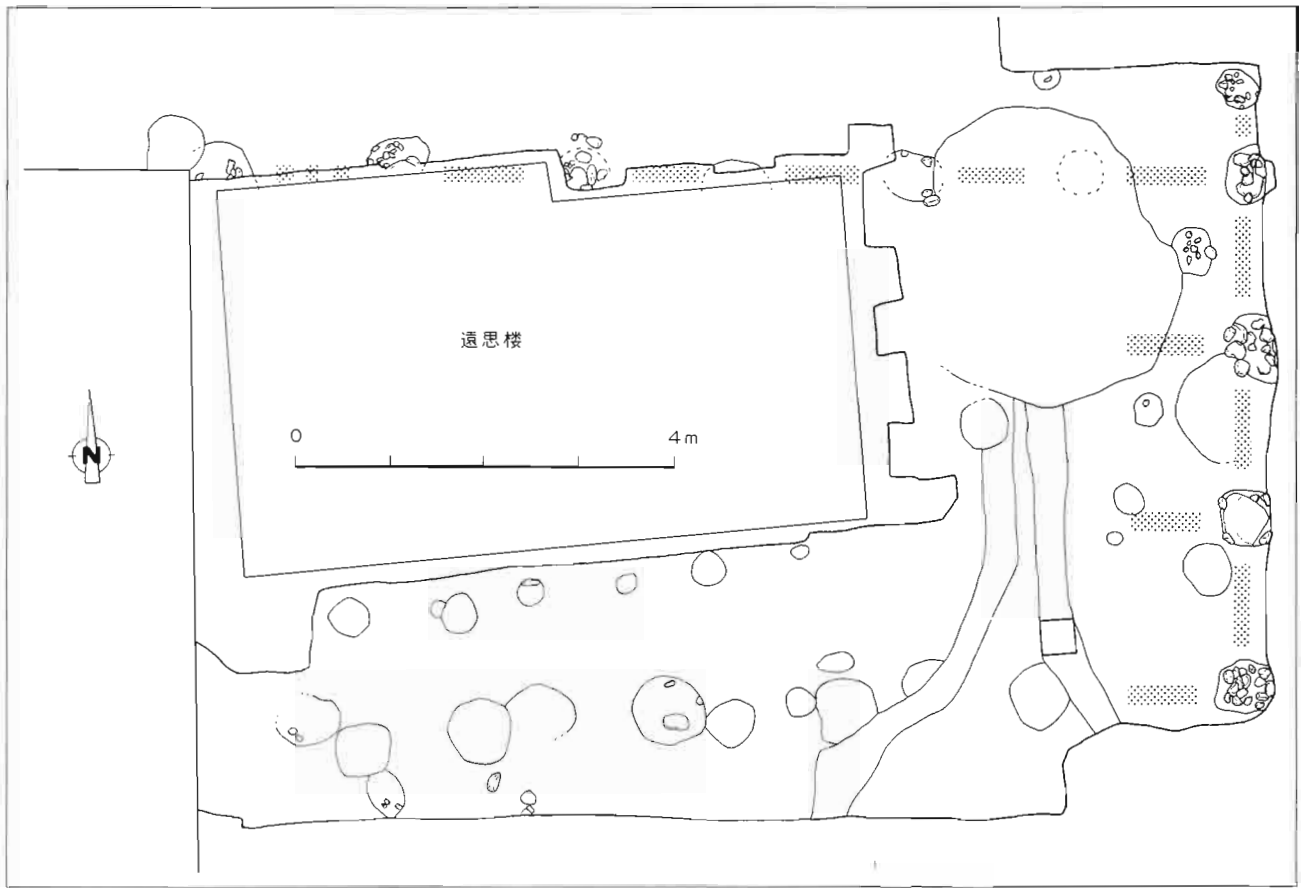
調査では3ヶ所の調査区を設定して確認を行ったが、目的とする講堂や東塾といった遺構は検出することができなかった。しかし、遠思楼周辺の3区において建物の礎石の一部を検出した。礎石は攪乱が著しいため、残りがよくなく大半は根石のみである。検出した礎石の配列は南北・東西方向とも1列ずつで、図に示す通りである。東西方向の礎石については遠思楼があるため、部分的にしか確認できていない。建物の規模は庇付きの3間(以上?)×5間(以上?)と推定される。柱間は1m90cmで、庇とは1mである。この1間の長さは隣接する秋風庵の柱間と一致している。

このほか、旧淡窓図書館の講堂、書庫、便所といった近代期の遺構が発見された。

まとめ

大正2年に描かれた咸宜園絵図には、明治期の塾の配置が書かれている。それによると、秋風庵の東側には南北に立ち並ぶ大小2つの建物が描かれている。梨雪館と心遠処である。この2つの建物は広瀬淡窓の自叙伝『懐舊筆筆記』に秋風庵の東南には、北に梅花塙、南に招隠洞を建てたと記録されている。そのうち南側にあたる招隠洞の南軒6畳を心遠処と呼んでいたと記す。礎石建物の上には遠思楼が建っているが、この遠思楼は明治6年に中城町に移され、昭和29年に現在地へと再築されたものである。現に咸宜園絵図には、遠思楼の位置が心遠処の東側に描かれている。こうしたことから、この建物は招隠洞と考えられる。

今回の調査では礎石の一部を発掘しただけで、建物の全容が確認できたわけではない。今後の確認調査の進捗具合では、その具体的な間取り等が把握できるであろう。



礎石建物（招隠洞？）の遺構図（1/80）

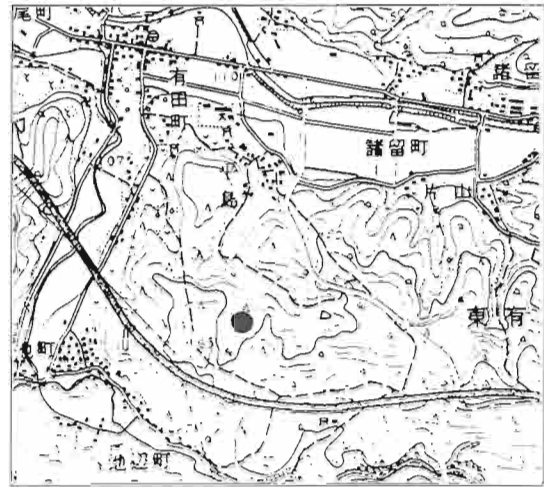


（左上・左下）礎石建物

6 クビリ遺跡 (KBR)

所在地 大字東有田字クビリ2772ほか
調査期間 960111~960328
開発面積 (400,000㎡)
調査面積 1,500㎡
調査費 4,297千円(原因者負担)
調査年次 1年次
遺跡の時代 奈良~平安時代
遺跡の種類 集落
担当者 行時志郎・森山敬一郎
※()はウッドコンビナート全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は、石ヶ迫遺跡や平島横穴墓群の存在する谷部から南へ向かって分岐した枝谷の中央にある。谷は狭く、傾斜が厳しいため、この場所以外においては遺構はまったく検出できなかった。

調査の概要

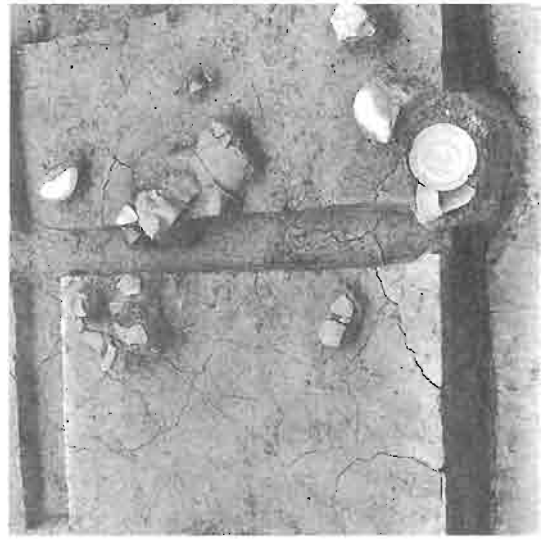
機械により、やや平坦な地形となっている区域全体を掘り下げ、遺構検出を行った。谷地となっているため遺構が確認された最も上の層で機械による検出作業を終え、最初にトレンチを入れて層位を確認した後、周辺部を広げて行く形となった。その結果、大きく2層に分かれ、上層からは遺構として小形の柱穴が多数検出された。また遺物としては11~12世紀頃の白磁碗や土師器などが出土した。下層からは遺構として数ヶ所の焼土面や柱穴が発見された。焼土面は竪穴住居跡のカマドあるいは鍛冶炉の可能性はあるが明確なプランは確認できなかった。また遺物としては鉄滓(鍛冶滓)、刀子、鉄鏃、鎌などの鉄器や分銅型の石製品、砥石とともに8世紀頃の須恵器、土師器などが出土した。

まとめ

下層の遺構は遺物の内容から鍛冶工房跡の存在が考えられる。周囲の柱穴はいずれも小さく簡単な作業場的なものであろう。同時期の集落が発見された石ヶ迫遺跡との関係が注目される。



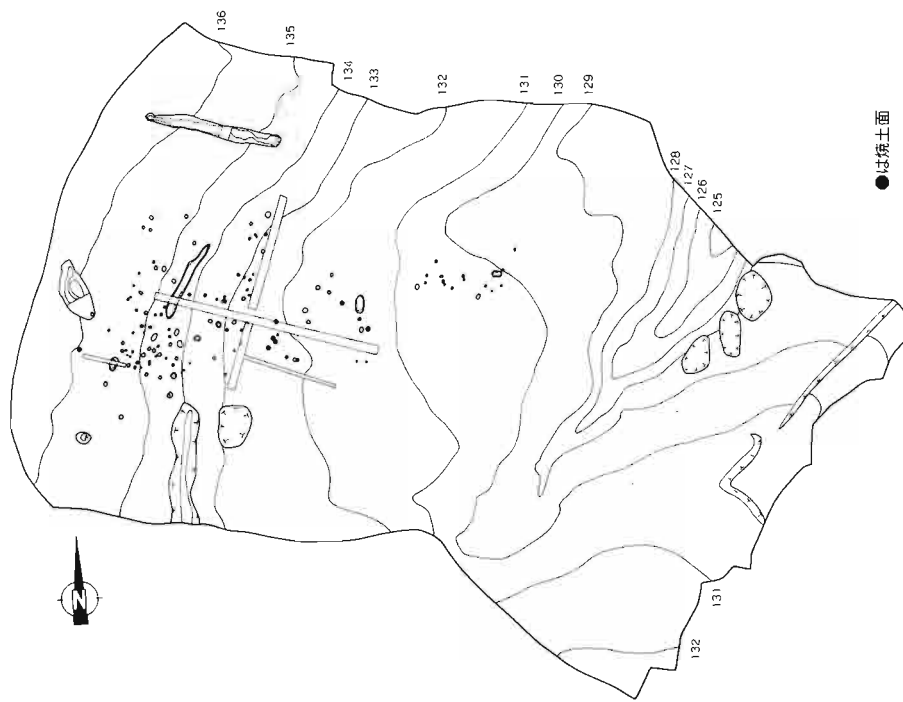
遺跡全景



遺物出土状況



遺跡全景



遺構配置図 (1/600)

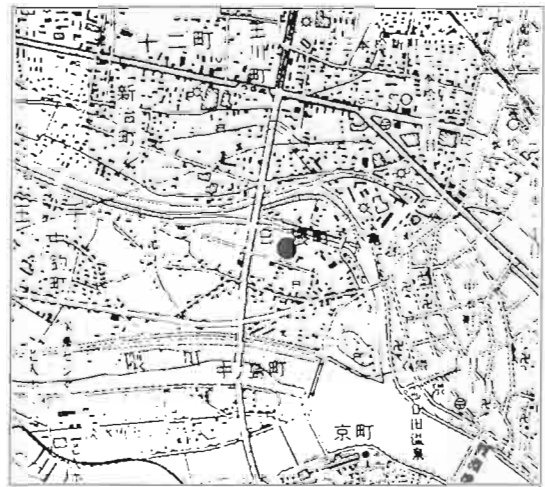
0 20m

●土面

7 村前遺跡 (MRM)

所在地 大字庄手字村前183-2ほか
調査期間 950208~950302
開発面積 2,201㎡
調査面積 1,200㎡
調査費 1,763千円(国庫補助)
調査年次 1年次
遺跡の時代 中世
遺跡の種類 掘立柱建物・井戸・水田
担当者 永田裕久

一日隈保育所改築に伴う発掘調査一



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は、日田市内の中央部、三隈川とその支流である庄手川との両河川によって挟まれた微高地上に位置している。一帯は三隈川の氾濫原にあたり昭和28年の大洪水の際にもかなり広範囲に冠水したという。遺跡の周辺には徳瀬遺跡・荻鶴遺跡等の遺跡が立地している。また三隈河畔の日ノ隈山周辺には近世日隈城跡と現在の隈町の前進となった町割が残る。

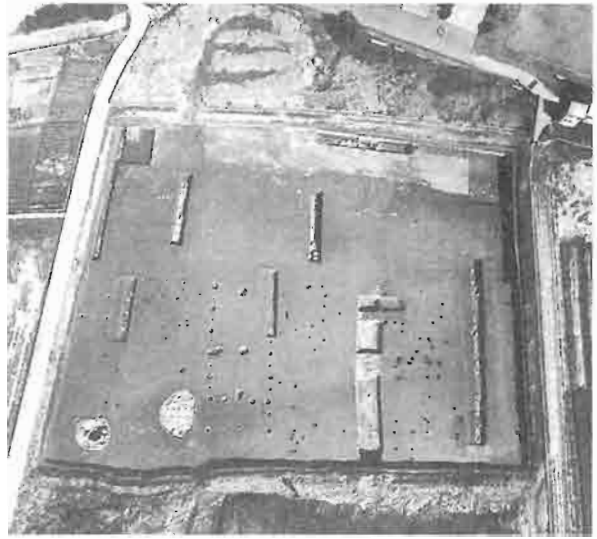
調査の概要

日ノ隈保育所改築に伴い平成8年1月16日より2週間をかけて建設予定地に試掘調査を行った。調査の結果、遺構が確認されたことから2月8日より発掘調査を実施した。

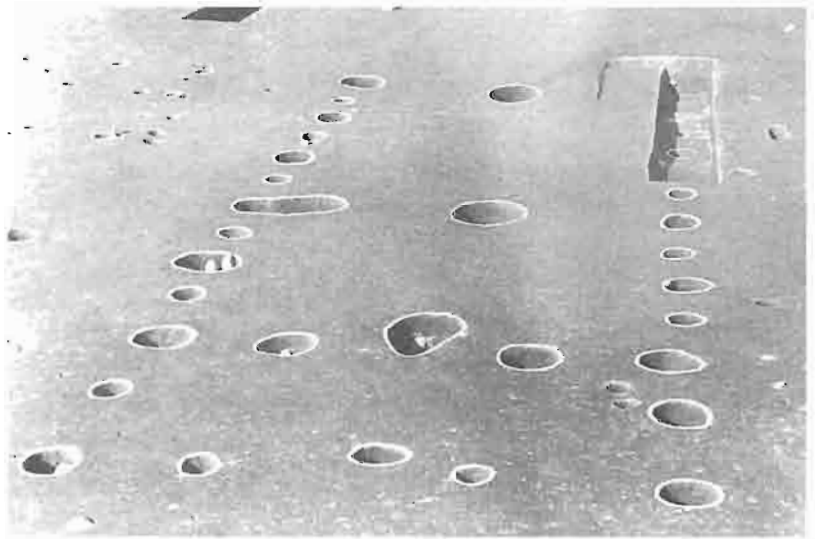
調査では、主要遺構として掘立柱建物5棟・井戸1基・土坑1基・水田が確認された。なかでも、調査区の中央に位置している1号掘立柱建物は、東西4間×南北12間の延べ床面積55㎡の規模を測る。調査区西南隅に位置する井戸は、1間×1間の屋形を備える。井戸の掘方は、長軸約3m・短軸約2m47cmを測り楕円形の平面プランを呈する。その掘方の中央に自然石を積み上げて井形を造る。深さは約1m15cm程を検出したが上面より自然石によって井戸は埋め戻されており、それ以上掘り下げることが困難であった。水田は、建物群の南側ではほぼ同レベルで確認されたが北側では約30cm程低い位置で確認された。

まとめ

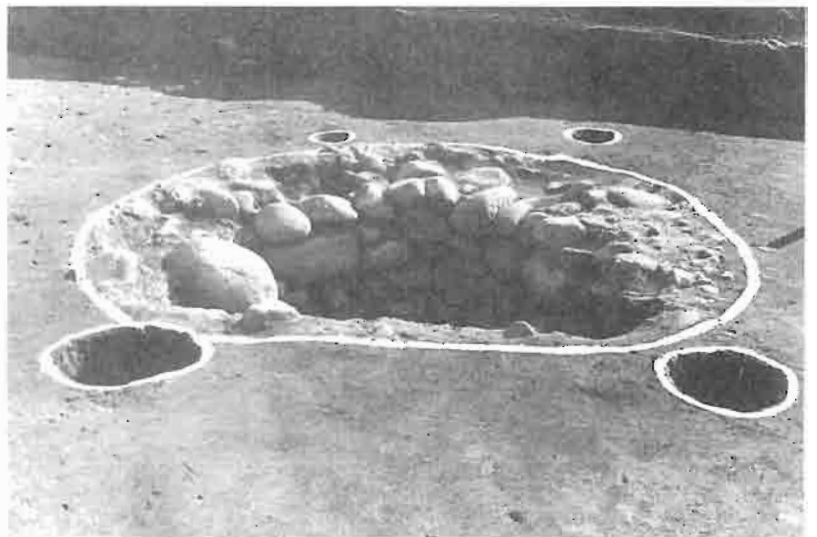
今回の調査地点である庄手地区一帯は、前述した様に三隈川の氾濫原にあたる。そうした立地条件のなかでの中世の掘立柱建物群と水田面の確認であった。確認された遺構は、大形の掘立柱建物を中心にその左右にひろがる掘立柱建物群と井戸そして建物群の前面と一段落ちた後ろ側には水田が広がるという展開を見せる。



調査区全景



1号掘立柱建物

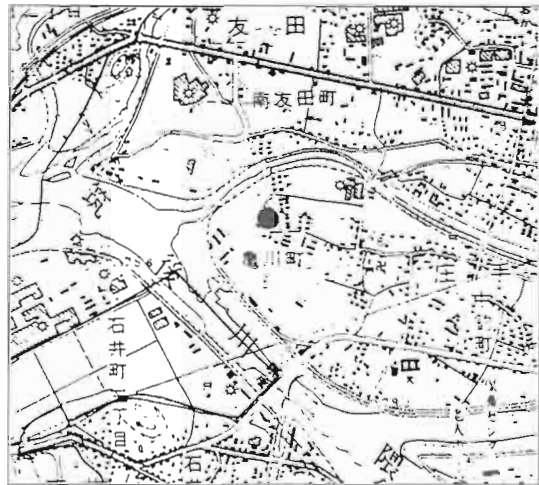


1号井戸

とくせ
8 徳瀬遺跡C区 (TKZ)

所在地 大字南友田字徳瀬605-1ほか
調査期間 960213~960223
開発面積 1,200㎡
調査面積 200㎡
調査費 試掘 107千円(国庫補助)
発掘 1,063千円(原因者負担)
調査年次 5年次
遺跡の時代 弥生時代、中世~近代
遺跡の種類 包含層、水田址
担当者 松下桂子

—市道亀川山田線道路建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田市のほぼ中心、三隈川と庄手川に挟まれた中洲の微高地に位置する。これまでに4度の試掘・発掘調査が行われており、弥生時代前期後半~中期前半の住居跡・貯蔵穴・土坑、後期後半~古墳時代初頭の住居跡・溝、古墳時代前期の方形周溝墓・石棺・土坑墓などが検出されている。今年度の調査区は、これらの遺構が検出された地点の北で、より庄手川に近づいた所である。

調査の概要

市道建設に先立ち、平成7年12月16日に予定地北半の立会調査を、平成8年1月10日に南半の試掘調査を行ったところ、前者では遺構・遺物は確認されなかったが、後者では包含層が検出されたため、この部分について本調査を行うこととなった。

本調査の調査区は、平成5年度に市教委が行った地点と、平成6年度に大分県教委が行った地点の北側に隣接する区域で、過去に検出された遺構群がどこまで北に広がるかという点で重要な場所であった。しかし調査では上記のような遺構は全く見つからず、弥生時代中期から、中・近世にわたる包含層が確認されたにすぎなかった。弥生時代の包含層からは、土器の量は比較的多く出土し、口縁部や平底のしっかりした底部など、良好な資料が得られた。

まとめ

今回の調査で検出された包含層は砂地で、人頭大~それ以上の大きさをもつ河原石の間に遺物が混入している状況であった。これは今回の調査区が以前の調査区よりも河川に近づいた位置であるため、ここは庄手川の氾濫原すなわち徳瀬遺跡の集落の縁辺部であったと考えられる。

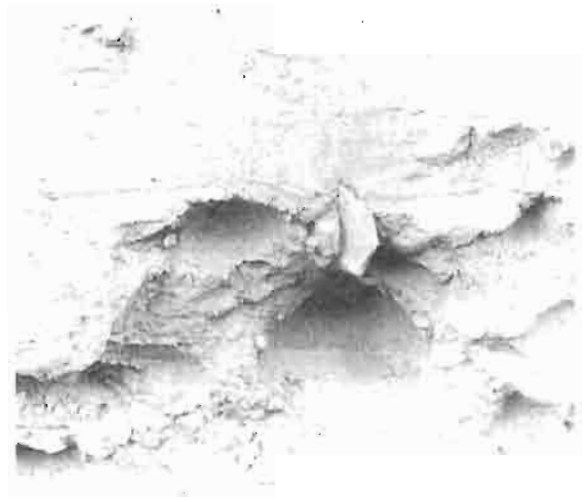
また、中世~近世の包含層は埋土の状況から水田跡と考えられ、徳瀬遺跡周辺における水田開発は中世には開始されていたことがわかった。徳瀬遺跡と同様な立地条件である荻鶴遺跡(平成4年度調査)でも平安時代に水田開発が行われていることから、日田盆地では河川の氾濫の影響を受けやすい沖積地の開発がおおよそ平安時代前後に始まると考えられる。



調査区遠景



調査区土層

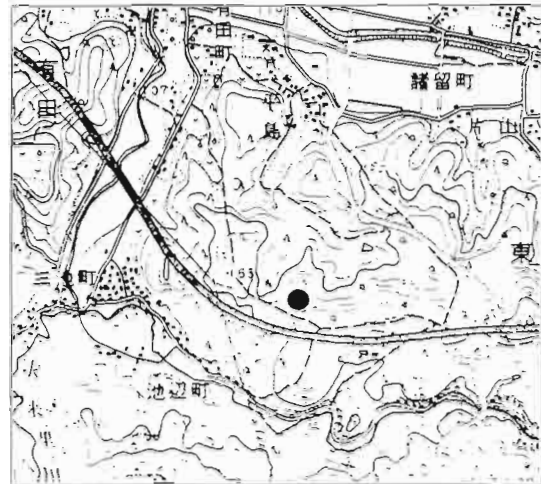


遺物出土状況

9 有田塚ヶ原遺跡 (ATH)

所在地 大字東有田字塚ヶ原2802ほか
調査期間 960215～960328
開発面積 (400,000㎡)
調査面積 13,000㎡
調査費 6,462千円(原因者負担)
調査年次 2年次
遺跡の時代 縄文・奈良時代
遺跡の種類 土坑、集落
担当者 行時志郎・森山敬一郎
※()はウッドコンビナート全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は平島横穴墓群や石ヶ迫遺跡を見下ろす東部から続く尾根上に立地する。遺跡のある一帯は比較的平坦な地形となっており、同一尾根上の南には古墳時代後期に築造された有田塚ヶ原1・2号墳が存在する。

調査の概要

機械により南北、東西方向に長いトレンチを設定し、遺構面を確認した後、全体の遺構検出作業を行った。その結果、縄文時代の土坑48基、奈良時代の掘立柱建物跡5棟が確認された。

縄文時代の土坑は北側調査区において多く検出された。全体的には隅丸長方形を基本とするものが多く見受けられ、掘り方はほぼ垂直に近い。中には1～3本の杭痕跡を床面に残すものもあり、落とし穴の可能性が考えられる。遺物としては、後期の土器が数基の土坑から出土している。

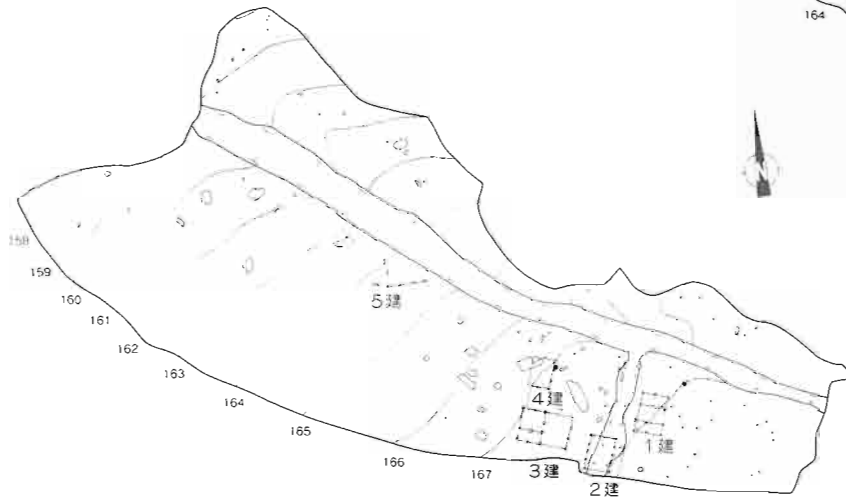
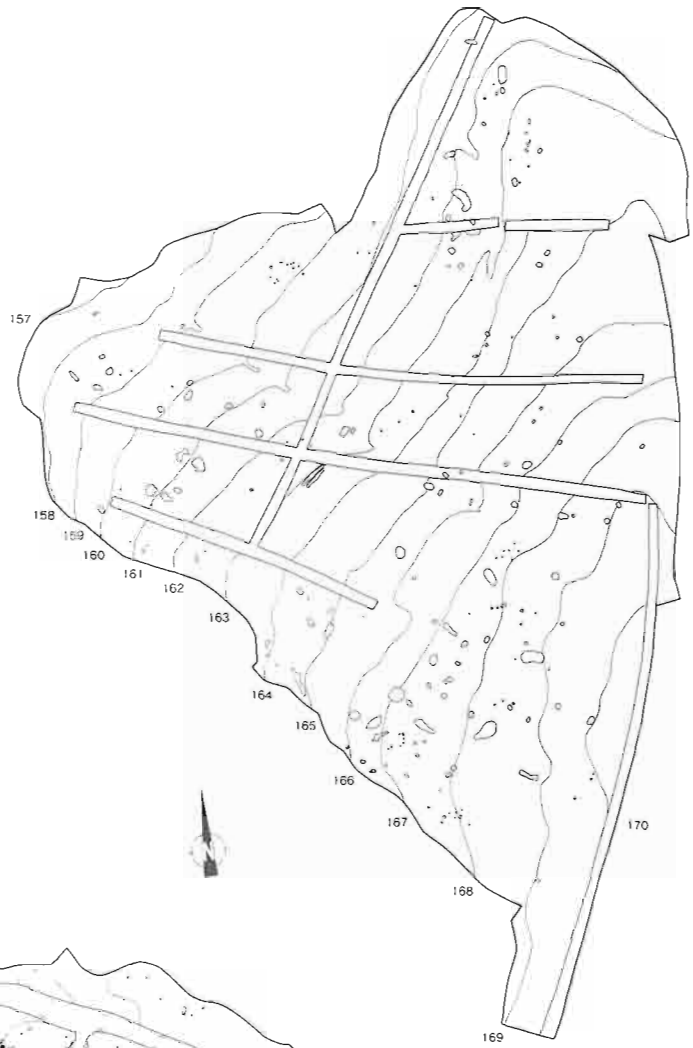
奈良時代の建物跡は2×3間、2×4間であるが、中には3号建物のように2×3間の建物を組合わせたようなものも存在する。柱穴からの遺物は、高台付の須恵器坏身が1点出土している。

まとめ

縄文時代の土坑はほとんどが後期と推測されるが、石ヶ迫遺跡で確認された包含層からも後期のものがあり、その関係が注目される。また、奈良時代の建物についても石ヶ迫遺跡やクビリ遺跡で確認されており、これらの遺構との関係も注目される。



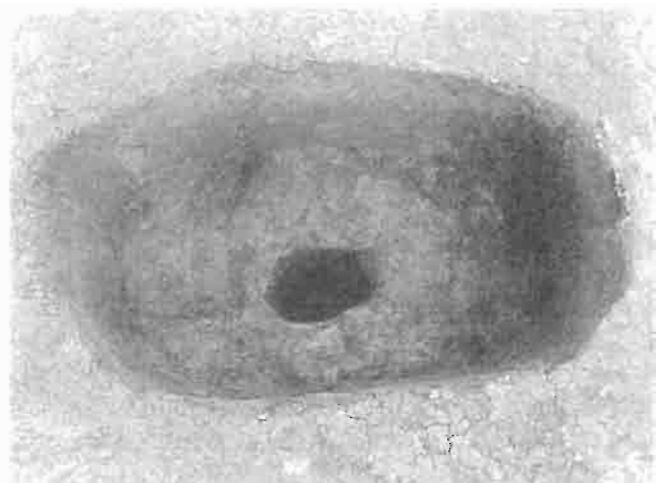
遺跡全景



有田塚ヶ原遺跡遺構配置図 (1/1,200)



建物群全景

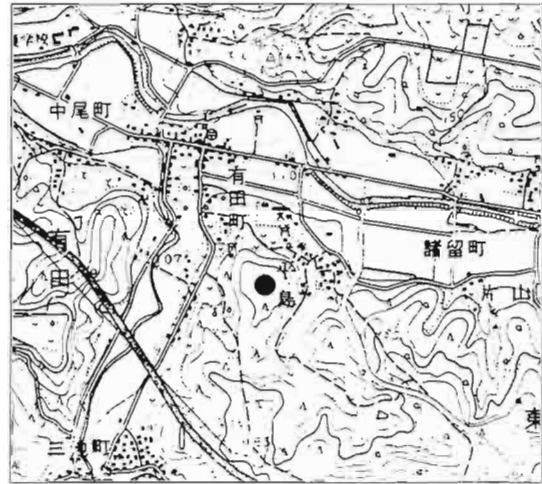


土坑完掘状況

10 祇園原遺跡 (GOB)

所在地 大字東有田字祇園原2727ほか
調査期間 960307～960328
開発面積 (400,000㎡)
調査面積 8,500㎡
調査費 6,454千円(原因者負担)
調査年次 1年次
遺跡の時代 弥生・江戸時代
遺跡の種類 集落・墓地
担当者 行時志郎・松下桂子・森山敬一郎
※()はウッドコンビナート全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は有田川と求来里川沿いに広がる沖積地を見下ろす舌状に張り出した丘陵先端部に立地する。丘陵上はほぼ方形の平坦な地形となっている。

調査の概要

機械により黄褐色の地山面まで表土を除去し、遺構検出を行った。調査前は畑であり、畑の境は溝により大きく削平を受けていたがそれ以外については遺構の残存度は良好であった。表土剥ぎの結果、弥生時代の竪穴住居跡24軒、掘立柱建物跡、円形周溝遺構、小児用甕棺墓、などの遺構が検出された。また南部では近世の墓地が存在し、正徳4年の紀年銘の墓石を始め、計10基が確認されていた。墓石の位置を記録し、墓石を除去した後、遺構検出を行った結果、57基の木棺墓が検出された。

弥生時代の遺構からは、中期末から後期前半頃の甕や壺、高坏などの土器がまとめて出土し、また鍛造鉄斧や鉄鏃などの鉄器、石鏃、石庖丁、砥石、磨石、石皿などの石器も多数出土している。

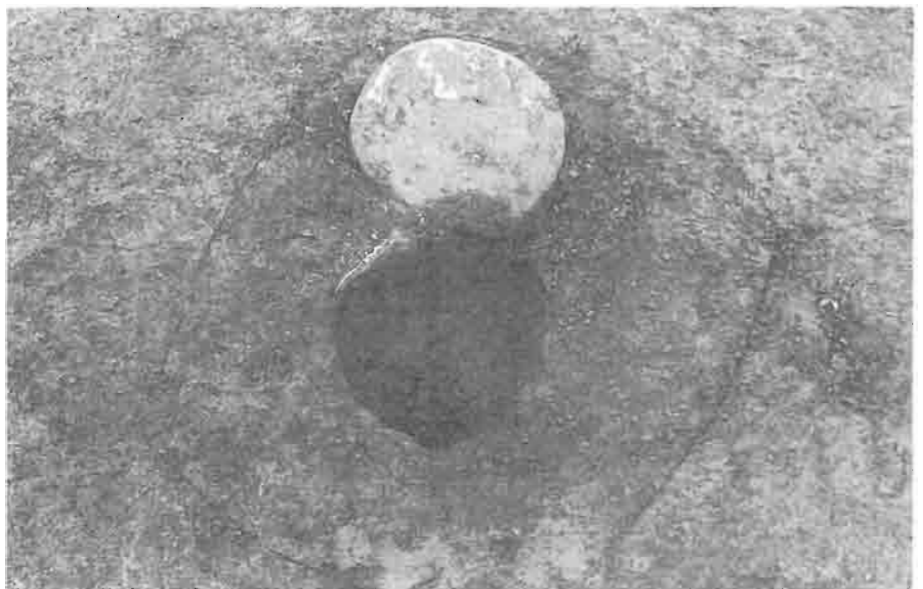
まとめ

弥生時代の竪穴住居跡は円形と方形のプランがあり、円形から方形へと住居跡が変化する過度期の様子がうかがえる集落遺跡として注目される。また中央部に高床倉庫跡などの建物群が配置され、それを中心に竪穴住居跡が円形に配置されるなど、当該期の集落構成を見る上でも貴重である。調査は平成8年度も継続して実施する。

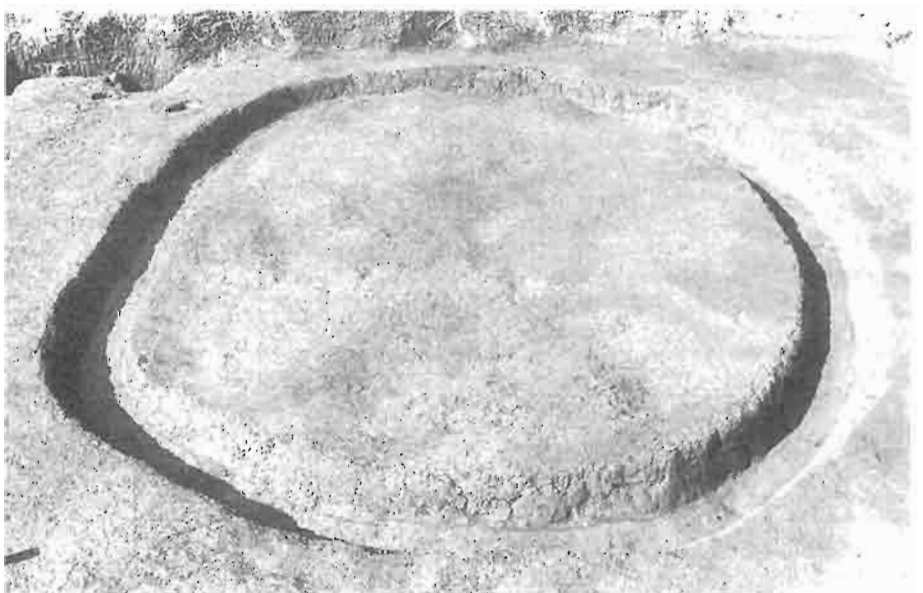
遺構検出作業風景



小児用甕棺墓出土状況



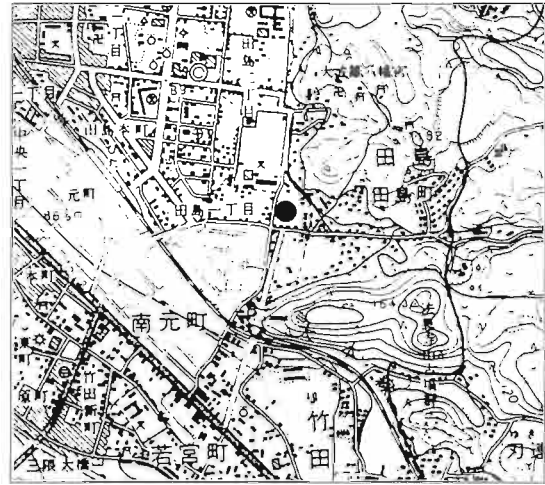
円形周溝遺構完掘状況



11 会所宮遺跡C区 (YMS)

所在地 大字田島字中ノ手483ほか
調査期間 960311～960329
開発面積 2,719㎡
調査面積 750㎡
調査費 試掘 107千円
発掘 4,593千円
調査年次 3年次
遺跡の時代 弥生・古墳時代、中世
遺跡の種類 竪穴住居、土坑、溝
担当者 永田裕久

—市道城町高瀬線道路建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の沖積地上に位置する。これまで2度の調査が行われており、溝・土坑等の遺構が確認されている。

調査の概要

市道建設に伴い、平成8年2月16日より建設予定地に試掘調査を行った、その結果遺構が確認されたことから3月11日より発掘調査を実施した。

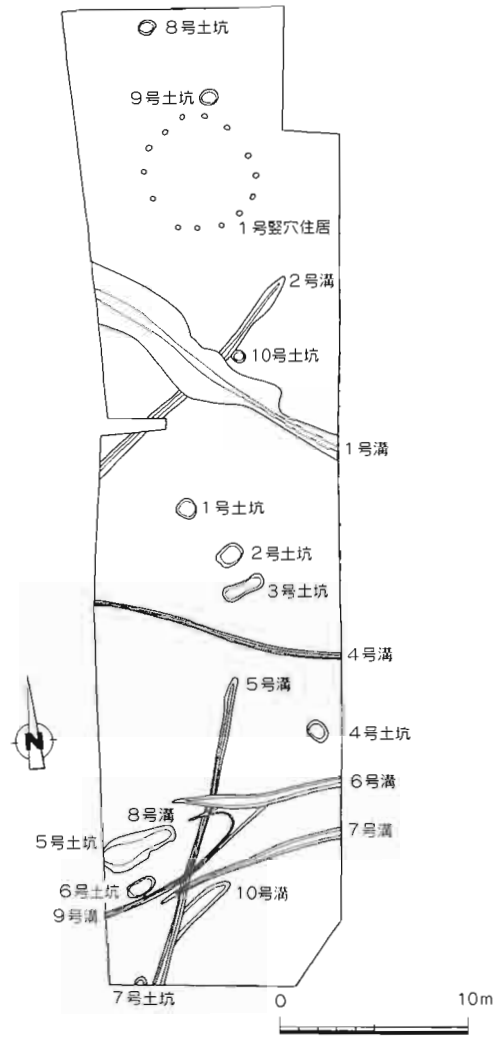
調査では主要遺構として、竪穴住居1軒・土坑10基・溝9条が確認された。竪穴住居は、削平をうけており柱穴のみの検出であるが14個が円形に巡る。柱穴より遺物は出土していないが、その形態と埋土から土坑と同時期のものと思われる。9基の土坑及び10号溝からは、弥生時代中期のし字形口縁もしくは鋤先形口縁を呈し、底部は厚底・上げ底・平底の特徴を呈する土器が出土している。

10号土坑については、備前焼の播鉢が出土しており中世の時期と思われる。

C区では溝9条が確認されたが、なかでもの調査区の中央を東西に走る1号溝は、幅約1m・深さ約0.5mの断面は逆台形を呈しており、長さ約15mを検出した。埋土中からは6世紀後半代と思われる須恵器の坏の身と蓋が出土している。

まとめ

今回の調査では、弥生時代の竪穴住居・土坑・溝3条のほか6世紀後半代と想定される溝6条が確認された。なかでも1～9号土坑や10号溝からは、弥生時代中期の城ノ越式・須玖式を主体とした土器群がまとまって出土している。



会所宮遺跡C区遺構配置図



1号竖穴住居跡



3号土坑出土土器

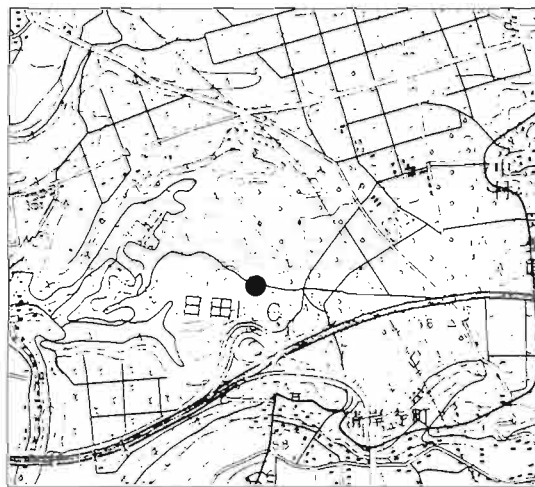
4) 試掘調査・立会調査の概要

12 山田原遺跡

やまだばる

所在地 大字渡里字池ノ迫687ほか
調査期間 951117~951121
開発面積 2,000㎡
調査面積 20㎡
調査費 100千円(国庫補助)
遺跡の時代 -
遺跡の種類 -
担当者 行時志郎

—林道池の迫線作業道開設に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田市北部の山田原台地より南西方向に延びる尾根上一帯にある。隣接する南部の尾根上や台地上には、古墳時代前期の多数の方形周溝墓などが発見された草場第2遺跡や弥生時代末期から古墳時代前期にかけての環濠集落や環濠居館が発見された小迫辻原遺跡などが存在している。また、北側の山田原台地上では、その東部で弥生時代の100軒を越える竪穴住居跡が発見された後迫遺跡などが存在している。

調査区は林道建設予定地の尾根の末端から谷に向かって下る斜面に計4ヶ所のトレンチを設定して遺構検出作業を行った。地山の黄褐色ローム層まで掘り下げた結果、遺構・遺物は検出されなかった。



試掘調査状況

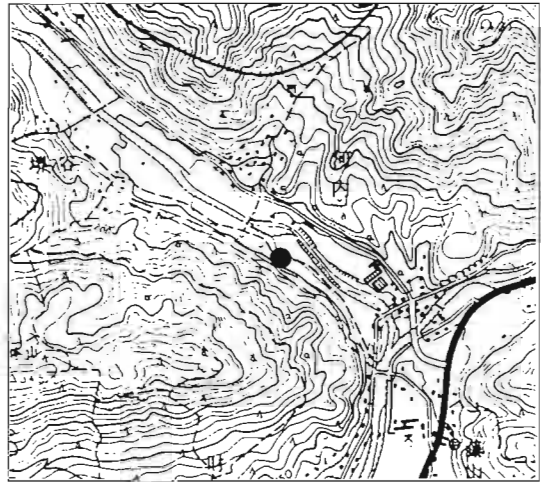


トレンチ完掘状況

13 ^{みかわ}三河遺跡

所在地 大字小野字樋ノ本495ほか
調査期間 951122～951127
開発面積 900㎡
調査面積 20㎡
調査費 98千円（国庫補助）
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 行時志郎

—小野地区農免農道整備工事に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地北部、小野川が花月川と合流する付近の谷状沖積地一帯に立地する。遺跡から小野川を挟んで向かいの尾根上には、中世日田の有力豪族、財津氏の古城跡があり、また花月川沿いにやや下った位置には、財津氏と所縁の深い龍林寺が存在している。また調査区の南に聳える龍体山の山頂からは中世の土師器などが発見されており、山城の存在が想定されている。

今年度の調査は、昨年度に立会調査を実施した地点より西に向かって小野川をさかのぼった地点にあたり、農道建設予定地にトレンチを4ヶ所設定して遺構検出作業を実施した。調査地点は丁度山裾から沖積地へと変わる部分で、沖積地に設定したトレンチではいずれも礫層と砂層が検出されたが出土遺物はなかった。また山裾の緩斜面に設定したトレンチからは縄文時代早期の押型文土器の小破片が1点検出された。しかし遺構は検出されなかった。



試掘調査状況

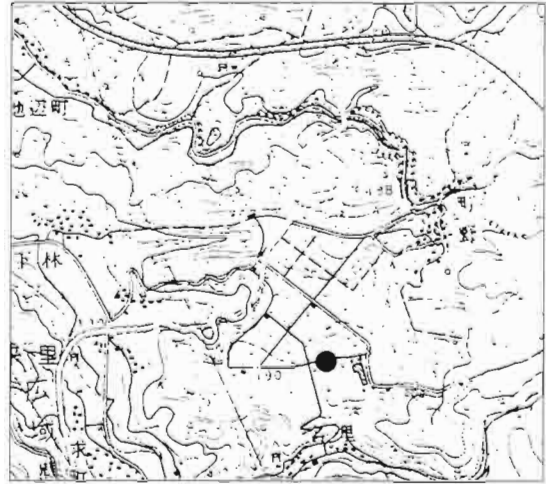


トレンチ完掘状況

14 まちのばる 町野原遺跡

— 県営畑地帯総合整備事業（三芳地区）に伴う試掘調査 —

所在地 大字求来里字町の原1933ほか
調査期間 960227
開発面積 780㎡
調査面積 50㎡
調査費 97千円（国庫補助）
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 松下桂子



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田市東部、通称町野原台地上に位置する。この台地西部の斜面には亀ノ甲遺跡（古墳）が、また沖積地上には縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡である求来里平島遺跡が存在している。本遺跡からもこれまでに旧石器～縄文時代の黒曜石片や古墳時代の土師器や須恵器などが表採されており、周知遺跡として確認されているが、過去6度にわたって行われた試掘調査では遺構・遺物が検出されていない。

今年度は町野原台地の県営畑地帯総合整備事業にかかる農道舗装工事に伴い、工事箇所にあたる台地南端780㎡を対象に調査を実施した。

調査は工事予定区間内で本来の地形をとどめていると思われる地点を選び、重機によって3本のトレンチを掘り下げたが、遺構・遺物の出土はなかった。



調査区近景

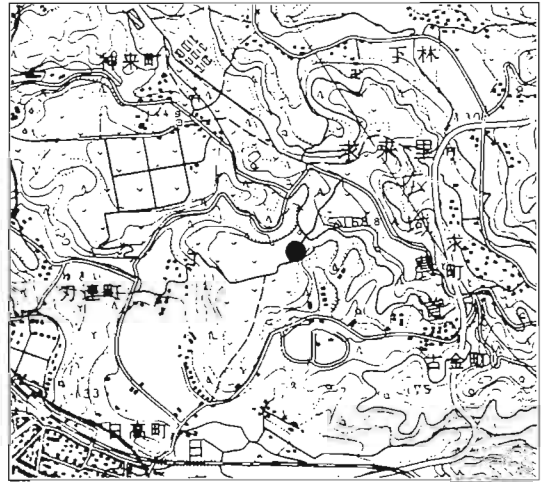


トレンチ完掘状況

とうじばる
15 東寺原遺跡

— 県営畑地帯総合整備事業（三芳地区）に伴う試掘調査 —

所在地 大字日高字東寺原1680-1ほか
開発面積 1,520㎡
調査面積 50㎡
調査期間 960229
調査費 97千円（国庫補助）
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 松下桂子



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

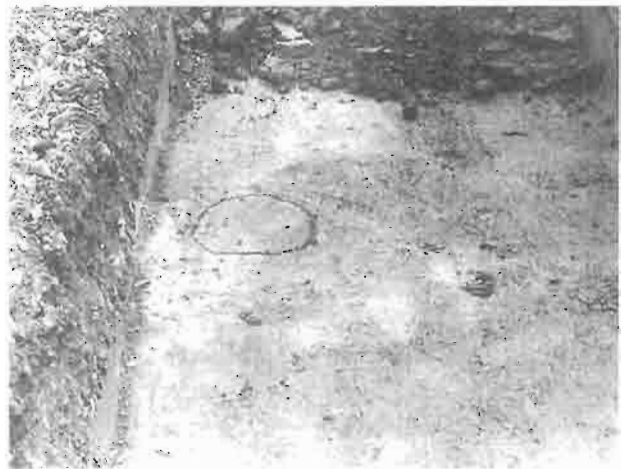
遺跡は日田市東部、通称東寺原台地上に位置する。遺跡の周囲には、小谷を隔てて西側に対峙する独立丘陵上に法恩寺山古墳群が、その北側には元宮原遺跡が存在し、さらにこの台地南側の斜面には東寺横穴墓群などの古くより著名な遺跡が確認されている。本遺跡のある台地上からも弥生時代の土器や石器が採集され、古くより遺跡の存在が周知されていた。

今年度は東寺原台地の県営畑地帯総合整備事業にかかる農道舗装工事に伴い、工事箇所にあたる1,520㎡を対象に試掘調査を実施した。

調査は工事予定区間内で本来の地形をとどめていると思われる地点を選び、機械によって7本のトレンチを設定し遺構検出作業を実施した。その結果、土器片が1点出土したものの明確な遺構の存在は認められなかった。



試掘調査状況

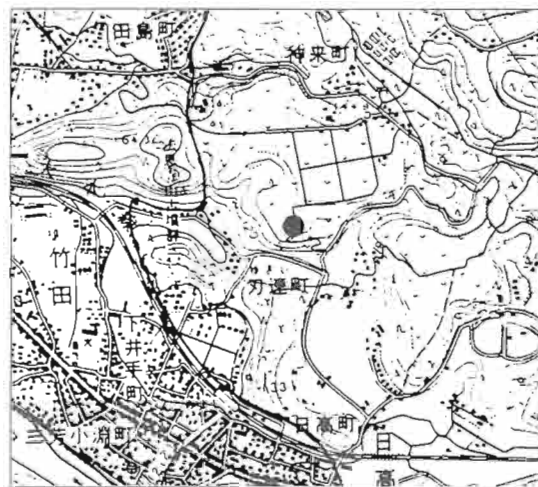


トレンチ完掘状況

もとみやばる
16 元宮原遺跡

— 県営畑地帯総合整備事業（三芳地区）に伴う試掘調査 —

所在地 大字求来里字元宮208-1ほか
調査期間 960301
開発面積 2,120㎡
調査面積 20㎡
調査費 97千円(国庫補助)
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地東部、沖積地を見下ろす台地上にある。遺跡周辺においては、谷を隔てて対峙する独立丘陵上には法恩寺山古墳群が、また台地を見下ろす丘陵上には石棺墓や中世の土師質土器が大量に出土した天神尾遺跡が、さらに眼下の谷状沖積地には縄文から中世にかけての複合遺跡である会所宮遺跡などが存在している。本遺跡からも、これまでに台地上からは石器や須恵器、土師器などが採取されるとともに、台地西端ではかつて圃場整備の際に石棺材などが確認され、古くから遺構の存在が知られていた。

調査は工事予定地である道路部分についてトレンチを3ヶ所に設定し、埋土を除去して遺構検出作業を行った。

調査の結果、遺構、遺物は検出されなかった。



試掘調査状況

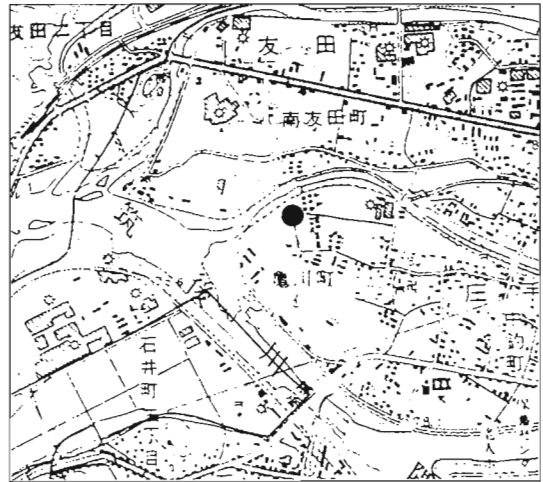


トレンチ完掘状況

17 とくせ 徳瀬遺跡

—日田市公共下水道事業亀川中継ポンプ場建設に伴う試掘調査—

所在地 大字友田字徳瀬385-5ほか
調査期間 960306
開発面積 667.99㎡
調査面積 4㎡
調査費 30千円(国庫補助)
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 松下桂子



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地の中央部、三隈川と庄手川に挟まれた沖積微高地上に位置する。これまで市教委や県教委によって4度の試掘・発掘調査が行われ、弥生から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡や石棺墓などが発見され、大量の弥生土器や土師器、さらにガラス小玉や鏡片などがの遺物が出土している。

今年度は日田市公共下水道(亀川中継ポンプ場)建設に伴い、工事箇所にあたる約668㎡を対象に試掘調査を実施した。ここはこれまでの過去の調査地点に比較し、河川に近い位置にあたる。調査では、1m×2mのトレンチを2本設定し、手掘りで遺構検出作業を実施した結果、耕作土下の砂層中から、弥生土器1点と近世陶器2点が発見されたが遺構の存在は確認できなかった。



試掘調査状況



トレンチ完掘状況

あかさこ
18 赤迫遺跡G地点 (AKS)

—植林に伴う試掘調査—

所在地 大字北豆田字赤迫1705ほか
調査期間 960325～960327
開発面積 2,800㎡
調査面積 2,000㎡
調査費 346千円(国庫補助)
遺跡の時代 古墳時代
遺跡の種類 墳墓
担当者 永田裕久



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地の東部、舌状にのびる尾根上に位置している。周辺には赤迫遺跡・薬師堂山古墳が点在している。この標高約120m・南北長約150mの尾根上において、風倒木処理に伴う植林作業中に棺材が露出したものである。

調査の結果、3基の石蓋土墳墓が現在確認されている。3基ともに石蓋が露出しており墓壙は確認できない。また尾根頂部からは長軸約2m10cm×短軸約1m90cmの規模を測る平面プランは正方形の遺構が検出されており、その形態や位置関係から墓壙になるものと思われる。遺跡は継続調査とした。



試掘調査状況



遺構検出作業風景

かたやま
19 片山遺跡

所在地 大字友田字下原1544-1
調査期間 950906
開発面積 240㎡
調査面積 15㎡
担当者 行時志郎

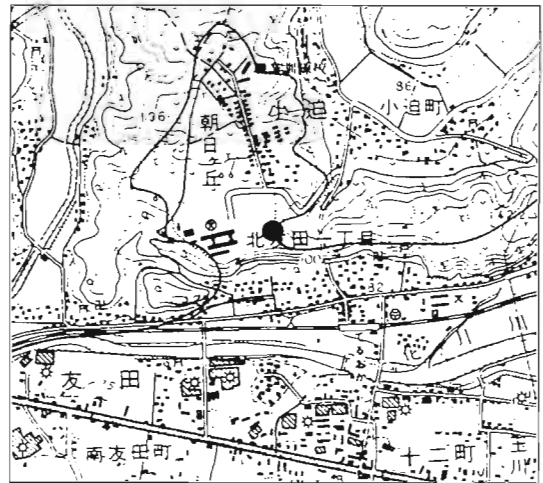
調査の概要

遺跡は日田盆地北部、通称向原台地上に存在する。東部へ繋がる台地上には吹上遺跡があり、これまで6度にわたる調査が実施され、弥生時代を中心に中世の遺構の存在も明らかとなっている。

この台地上からも調査区西部にある三隈高校建設の際に、甕棺墓が発見されたのをはじめ、平成8年度の県教育委員会の発掘調査でも縄文時代の落穴などが確認されている。

今回の調査区は台地東端の斜面に近い位置にあたり、機械による遺構検出作業を実施した結果、遺構、遺物の出土は確認されなかった。

—携帯・自動車電話基地局建設に伴う立会調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

くさば
20 草場第1遺跡

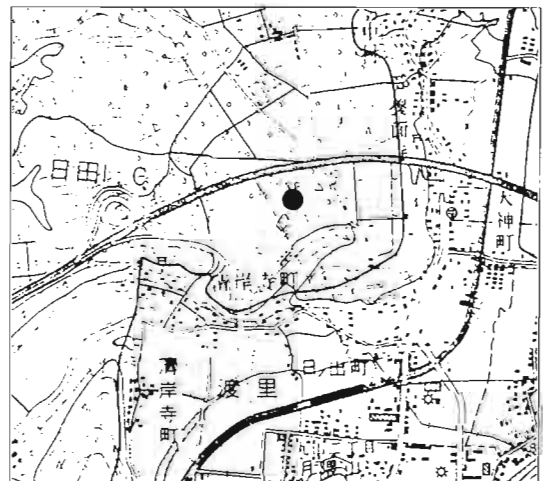
所在地 大字渡里字後の迫360
調査期間 950912
開発面積 18,275㎡
調査面積 70㎡
担当者 行時志郎

調査の概要

遺跡は日田盆地北部の小谷斜面に存在している。遺跡の北側に広がる山田原台地上では、その東部で弥生時代や中世の複合遺跡である後迫遺跡が九州横断自動車道建設に伴って発掘調査され、100軒を超える竪穴住居跡や石棺墓などが発見されている。石棺墓の中からは、1方製内行花文鏡が出土している。また、調査区のすぐ北東にある緩やかな丘陵上からかつて石棺墓が発見され、ここからも舶載の内行花文鏡片が出土している。

調査区は谷へ下る急斜面であり、甕棺墓や石棺墓などが存在する可能性があるため、機械によりトレンチ調査を行った。調査の結果、中世の遺物が検出されたものの、遺構は存在しなかった。

—サッカー場建設に伴う立会調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

21 ひ たじょうり 日田条里遺跡（田竹地区）

所在地 大字三和字田竹179-1ほか
調査期間 951221
開発面積 2,357㎡
調査面積 40㎡
担当者 行時志郎

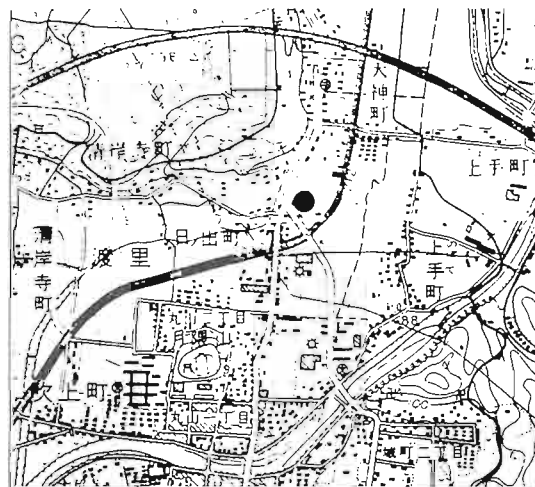
調査の概要

遺跡は日田盆地北部、花月川沿いに北へ延びる沖積地上にある。ここより北約1kmの地点では九州横断自動車道建設に伴い行われた発掘調査で、古墳時代前期の竪穴住居跡が1軒確認されている。

調査区は沖積地が西へ向かって展開していくコーナー付近であり、集落等が存在する可能性があったため、機械によるトレンチ調査を行った。

調査の結果、水田表土直下より河原石や砂層が現れ、遺構・遺物は確認されなかった。

—宅地造成に伴う立会調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

22 なかづる 中釣地区

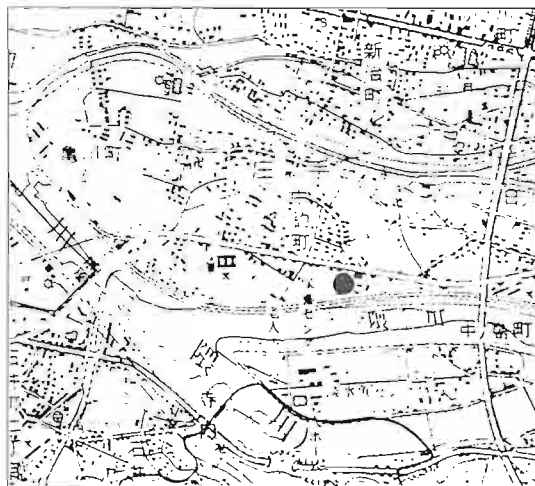
所在地 大字庄手字中釣481-1ほか
調査期間 960228
開発面積 3,877㎡
調査面積 40㎡
担当者 松下桂子

調査の概要

この地区は、日田盆地の中央、三隈川と庄手川に挟まれた中洲に存在する。同じ中洲の西端には弥生から古墳時代にかけての複合遺跡である徳瀬遺跡があることから遺跡の存在する可能性があるため、機械によるトレンチ調査を行った。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。

—医療施設建設に伴う立会調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

II 平成7年度埋蔵文化財普及・啓発事業

- 1) 現地説明会の開催
- 2) 講演会等の開催
- 3) 展示会の開催
- 4) 広報活動
- 5) 刊行物

1) 現地説明会の開催

現地説明会は、市教育委員会の主催により、7月2日に吹上遺跡6次調査地点で行った。吹上遺跡の6次調査ではすでに概要を記している(6P)とおり、弥生時代中期後半の甕棺墓や木棺墓で構成される墳墓群が発掘され、青銅器など豊富な副葬品が出土し注目を集めた。

こうした弥生期の墳墓群の事例は県内でも見当たらないことから、その調査成果の意義を広く一般に公開するために開催したものである。

当日は発掘された甕棺墓8基のうち、副葬品や人骨が発見された4、5号甕棺墓と出土した青銅器の展示を行い、市教育委員会担当者がその説明にあたった。

梅雨の時期でもあり、激しい雷雨の中、県内外から約500人の参加者があった。



吹上遺跡現地説明会風景

2) 講演会等の開催

平成7年度は吹上遺跡6次調査の発掘成果を、広く市民に公開することを目的に、特別講演会と公開講座を開催した。県内でも希に見る弥生時代中期の副葬品を持った甕棺墓の発見ということもあって、2つの催しが各週の日曜日に開催されるなか、しかも秋の行事が多いなか、熱心な考古学ファンで会場は熱気に包まれていた。

1) 吹上遺跡特別講演会

福岡大学教授の小田富士雄先生を講師に招いて、「北部九州のクニグニと吹上遺跡」と題した講演会を11月26日(日)、日田市文化センターホールにて開催した。講演では吹上遺跡6次調査の意義や、吹上遺跡の北部九州における位置づけなど、『魏志倭人伝』などの資料を交えた講演が行われた。参加者63人。



吹上遺跡特別講演会の様子

2) 吹上遺跡公開講座

この講座は吹上遺跡をより深く知っていただくために、それぞれ専門的に研究されている大学の先生方をお招きして、吹上遺跡について語っていただいた。場所は日田市役所別館3階会議室。内容等は次のとおりである。

第1回(10月22日)は「吹上遺跡の発掘調査成果について」を、市教委文化課永田裕久氏が講義。受講者32名。第2回(10月29日)は「比多のクニの時代ー吹上遺跡から小迫辻原遺跡へー」と題して、別府大学教授後藤宗俊先生が講義。受講者42名。第3回(11月5日)は「弥生人骨に迫るー吹上遺跡の復元からー」と題して、九州大学大学院大学教授田中良之先生が講義。受講者41名。第4回(11月12日)は「石の武器・銅の武器・鉄の武器」と題して、愛媛大学教授下條信行先生が講義。受講者36名。第5回(11月19日)は「弥生の墓ー有力者と民衆ー」と題して西南学院大学教授高倉洋彰先生が講義。受講者25名。第6回(12月3日)「日田盆地と貝の道」と題して熊本大学助教授木下尚子先生が講義。受講者33名。



吹上遺跡公開講座の様子

3) 展示会の開催

平成7年度に日田市の埋蔵文化財に関する展示会は、計3回行った。吹上遺跡の発見もあるが、年々増加する遺跡調査が、マスコミ報道される機会が多くなり、市民の関心も高くなってきている。こうした意味からも、広く遺跡や遺跡から出土した遺物をみてもらおうと、市役所のロビーなどを利用して無料にて開催した。

1) 新日田の指定文化財展

平成6年度中に指定を受けた文化財を遺物やパネルを使って紹介した。埋蔵文化財関係では、平成6年11月18日に国指定史跡の答申を受けた小迫辻原遺跡。平成7年3月10日付けで県指定有形文化財に指定されたガランドヤ古墳群出土品と朝日宮ノ原遺跡4号中世墓出土品、平成6年11月18日付けで市史跡に指定された牧原千人塚に関する資料展示を行った。展示会は市役所1階ロビーにおいて、5月22日(月)から6月9日(金)まで開催し、約600人の見学者があった。

主な展示品は次のとおりである。小迫辻原遺跡の弥生時代終りから古墳時代初めの弥生土器や土師器など13点、ガランドヤ古墳群出土の須恵器・鉄器・鏡など66点、朝日宮ノ原遺跡4号中世墓出土の陶磁器など一括品50点のほか、牧原千人塚についてはパネルで紹介した。

2) 吹上遺跡(6次調査)発掘調査速報展

弥生時代中期の副葬品を持つ甕棺墓や木棺墓などが発掘された吹上遺跡6次調査の発掘品を、広く市民に公開することを目的に、特別講演会や公開講座と合わせて行った展示会である。展示では佐賀県吉野ヶ里遺跡で出土した有柄式細形銅剣のレプリカを借用し、これまで行った吹上遺跡の5回の調査で出土した資料なども合わせて展示した。展示会は市役所別館2階の市埋蔵文化財センター展示室において、10月21日(土)から12月3日(日)まで開催し、981人の見学者があった。

主な展示品は次のとおりである。甕棺・細形銅剣・青銅製十字形把頭飾・銅戈・鉄剣・管玉・勾玉・貝輪・弥生土器・石器・石棺の復元など約100点である。

3) 小迫辻原遺跡復元模型一般公開展

この展示会は、市民グループの小迫辻原遺跡研究会が製作した小迫辻原遺跡の復元模型を日田市に寄贈したことを受け、一般に公開した。遺跡の復元模型は同研究会が、約6ヶ月かけて製作した1/500の大きさのもの。また、合わせて日田林工高校建築科生徒による日田林工高校建築科生徒が製作した、同遺跡2号居館模型も展示した。展示会は市役所1階ロビーにおいて、12月1日(金)から12月22日(金)まで開催し、約600人の見学者があった。

主な展示品は小迫辻原遺跡復元模型、居館復元模型、小迫辻原遺跡の出土品などである。



小迫辻原遺跡復元模型一般公開展の様子

4) 広報活動

隆盛のあかし

吹上遺跡の甕棺墓

吹上遺跡の甕棺墓は、古くは縄文時代中期から後期の間に、後には古墳時代前期の間に、約1000年間にわたって利用された。この間に、甕棺墓の形制や出土品も大きく変化した。吹上遺跡の甕棺墓は、その変遷を捉える貴重な資料である。

南海産の貝輪 青銅器の銅戈、鉄剣



貝輪、銅戈などが見つかった4号墓



イモガイの貝輪 (吹上) も十数個 (5) 号墓前

豪華な副葬品次々

吹上遺跡の4号墓からは、豪華な副葬品が次々と出土している。その中には、南海産の貝輪や、青銅器の銅戈、鉄剣などがある。これらの出土品は、当時の社会の発展や文化交流を示している。



「すばらしい」「ぜひ保存を」

興害の地元

吹上遺跡の発掘は、地元住民の間で大きな関心を集めている。出土品の重要性を認識し、ぜひ保存してほしいという声が多く聞かれる。地元では、この遺跡を観光資源として活用し、地域の活性化を図りたいという思いが強い。



吹上遺跡の管玉、石見がたりの型(白川市吹上遺跡)

県下初の獣形勾玉

ガラスの管玉も18個出土

吹上遺跡からは、県下初となる獣形勾玉が出土した。また、ガラスの管玉も18個見つかった。これらの出土品は、当時の高度なガラス工芸技術を示している。



ガラスの管玉、次々と 三号甕棺の人骨は「改葬」

日田市吹上遺跡



4号墓棺から見つかった管玉

甕棺が崩壊し、棺蓋と蓋の間に隙間ができた。この隙間にガラスの管玉が落ちてきた。また、三号甕棺の人骨は「改葬」された。これは、当時の埋葬慣習や信仰の転換を示している。

7月13日掲載
3号甕棺墓で改葬が行われたことが明らかとなった記事 (大分合同新聞社)

6月29日掲載
吹上遺跡記者発表の際の記事 (大分合同新聞社)

銅剣と十字形把頭飾が出土

日田市・吹上遺跡の1号木棺墓



日田市の吹上遺跡1号木棺墓から出土した銅剣と十字形把頭飾

発掘調査では県内初 「クニ」の存在を裏付け

10月14日掲載
吹上遺跡1号木棺墓より銅剣と把頭飾が出土した内容の記事 (西日本新聞社)

「クニ」の存在を裏付ける重要な証拠が出土した。銅剣と十字形把頭飾は、古くは古墳時代中期から後期の間に、後には古墳時代前期の間に、約1000年間にわたって利用された。この間に、甕棺墓の形制や出土品も大きく変化した。吹上遺跡の甕棺墓は、その変遷を捉える貴重な資料である。

7月12日掲載
吹上遺跡5号甕棺墓より玉類が新たに出土した内容の記事 (大分合同新聞社)

5) 刊行物

『荻鶴遺跡』－日田市埋蔵文化財調査報告書第9集－

体 裁 A4版

総ページ数 本文96ページ、写真図版17ページ

内 容 複合商業施設建設に伴い発掘調査が行われ、古墳時代中期（竪穴遺構＜鍛冶遺構＞1基、祭祀遺構1基、溝状遺構1条）、古代～中世（掘立柱建物10棟、溝状遺構11条、土坑4基、水田遺構6枚）等が発見された。



『郷四郎遺跡』－日田市埋蔵文化財調査報告書第10集－

体 裁 A4版

総ページ数 本文12ページ、写真図版1ページ

内 容 店舗建設に伴い発掘調査が行われ、古墳～中世の溝状遺構5条が発見された。



『吹上遺跡』－6次調査の概要－

体 裁 A4版

総ページ数 10ページ（オールカラー）

内 容 鉄塔建設に伴い発掘調査が行われ、弥生時代中期の甕棺墓や木棺墓などの墓地が発見された。さらに中からは銅剣・銅戈・鉄剣などの武器、南海産ゴホウラ製やイモガイ製の腕飾類、多数の玉類が出土し、日田盆地の弥生時代の首長墓の姿が明らかとなった。



Ⅲ 受領図書一覧

番号	書名	寄贈者	刊行年
	東京都		
1	中里遺跡3 東北新幹線建設に伴う発掘調査	中里遺跡調査会・東京都教育庁	1989
2	中里遺跡4 "	"	1989
3	中里遺跡5 "	"	1989
4	中里遺跡6 "	"	1989
5	竹橋門 江戸城址北丸竹橋門地区発掘調査報告	東京都国立近代美術館遺跡調査会	1991
6	上野忍岡遺跡 国立科学博物館〈たんけん館・野外展示模型〉地点発掘調査報告書	国立科学博物館上野地区埋蔵文化財発掘調査委員会	1995
	滋賀県		
7	大谷南遺跡 大津市埋蔵文化財調査報告書24	大津市教育委員会	1994
	京都府		
8	京都府埋蔵文化財情報第55号～58号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	1995
9	滝岡田古墳 加悦町文化財調査報告書第22集	加悦町教育委員会	1995
10	明石裏ノ谷遺跡・入谷西D1号墳	"	1995
	大阪府		
11	日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究	大阪大学文学部	1995
	兵庫県		
12	西本6号遺跡	淡神文化財協会	1995
13	のじぎく文化財だより38～40号	のじぎく文化財保護研究財団	1995
	奈良県		
14	ニューズレターNo.1～10 目次・索引	奈良国立文化財研究所	1995
15	文化財学報第12集	奈良大学文学部文化財学科	1994
16	文化財学報第13集	"	1995
	岡山県		
17	南方前池遺跡－縄文時代木の実貯蔵穴の発掘－	山陽町教育委員会	1995
	山口県		
18	山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅻ	山口大学埋蔵文化財資料館	1994
	徳島県		
19	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要5	徳島市教育委員会	1995
20	阿波を掘る 第15回埋蔵文化財資料展	"	1995
	福岡県		
21	福岡市埋蔵文化財センター年報第13号	福岡市埋蔵文化財センター	1995
22	福岡市埋蔵文化財センター年報第14号	"	1996
23	福岡城月見櫓 福岡市埋蔵文化財調査報告書第316集	福岡市教育委員会	1992
24	志賀島・玄海島 福岡市埋蔵文化財調査報告書第391集	"	1995
25	博多43 福岡市埋蔵文化財調査報告書第392集	"	1995
26	博多44 福岡市埋蔵文化財調査報告書第393集	"	1995
27	博多45 福岡市埋蔵文化財調査報告書第394集	"	1995
28	博多46 福岡市埋蔵文化財調査報告書第395集	"	1995
29	博多47 福岡市埋蔵文化財調査報告書第396集	"	1995
30	博多48 福岡市埋蔵文化財調査報告書第397集	"	1995
31	那珂遺跡13 福岡市埋蔵文化財調査報告書第398集	"	1995
32	那珂14 福岡市埋蔵文化財調査報告書第399集	"	1995
33	東那珂遺跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第400集	"	1995
34	比恵遺跡群(15) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第401集	"	1995
35	比恵遺跡群(16) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第402集	"	1995
36	比恵遺跡群(17) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第403集	"	1995
37	比恵遺跡群(18) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第404集	"	1995
38	堅粕2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第405集	"	1995
39	雀居遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第406集	"	1995
40	雀居遺跡3 福岡市埋蔵文化財調査報告書第407集	"	1995
41	席田青木遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第408集	"	1995
42	中南部(4) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第409集	"	1995
43	板付遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第410集	"	1995

番号	書名	寄贈者	刊行年
44	井尻B遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第411集	福岡市教育委員会	1995
45	井尻B遺跡3 福岡市埋蔵文化財調査報告書第412集	〃	1995
46	野多目台 福岡市埋蔵文化財調査報告書第413集	〃	1995
47	警弥郷B遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第414集	〃	1995
48	福岡城跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第415集	〃	1995
49	鴻臚館跡5 福岡市埋蔵文化財調査報告書第416集	〃	1995
50	長尾遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第417集	〃	1995
51	四箇遺跡25次調査・熊本遺跡2次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第418集	〃	1995
52	藤崎遺跡10 福岡市埋蔵文化財調査報告書第419集	〃	1995
53	クエゾノ遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第420集	〃	1995
54	東入部遺跡群4 福岡市埋蔵文化財調査報告書第421集	〃	1995
55	四箇船石1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第422集	〃	1995
56	田村遺跡XI 福岡市埋蔵文化財調査報告書第423集	〃	1995
57	入部V 福岡市埋蔵文化財調査報告書第424集	〃	1995
58	小笠木 福岡市埋蔵文化財調査報告書第425集	〃	1995
59	有田・小田部第21集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第426集	〃	1995
60	有田・小田部第22集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第427集	〃	1995
61	四箇周辺遺跡群(6) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第428集	〃	1995
62	周船寺遺跡群(国道202号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告VI) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第429集	〃	1995
63	大原A遺跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第430集	〃	1995
64	大原A遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第431集	〃	1995
65	桑原遺跡群-第1次調査- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第432集	〃	1995
66	大原C遺跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第433集	〃	1995
67	都地遺跡(4) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第434集	〃	1995
68	飯氏二塚古墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書第435集	〃	1995
69	徳永古墳群3-H群2次調査-・女原上ノ谷製鉄址(福岡市西武地区埋蔵文化財調査報告書Ⅲ) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第436集	〃	1995
70	吉武遺跡群Ⅶ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集	〃	1995
71	野方久保遺跡3-第4次調査- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第438集	〃	1995
72	史跡板付遺跡-環境整備報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第439集	〃	1995
73	飯倉D遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第440集	〃	1995
74	福岡市埋蔵文化財年報vol.8-1993年度-	〃	1995
75	三沢古墳群Ⅱ 小都市文化財調査報告書第79集	小都市教育委員会	1992
76	三国地区遺跡群Ⅲ 小都市文化財調査報告書第87集	〃	1994
77	刈又地区遺跡群 小都市文化財調査報告書第88集	〃	1994
78	横隈内畑遺跡 小都市文化財調査報告書第89集	〃	1994
79	千潟城山遺跡Ⅰ 小都市文化財調査報告書第90集	〃	1994
80	発掘された三沢のむかしのくらし-総集編- 小都市文化財調査報告書第91集	〃	1994
81	津古遺跡群Ⅱ 小都市文化財調査報告書第92集	〃	1994
82	小郡若山遺跡3 小都市文化財調査報告書第93集	〃	1994
83	刈又地区遺跡群 小都市文化財調査報告書第94集	〃	1994
84	小郡川原田遺跡 小都市文化財調査報告書第95集	〃	1995
85	横隈上ノ原上遺跡 小都市文化財調査報告書第96集	〃	1995
86	筑前国分尼寺跡Ⅲ-第4・8・9・13・17次調査- 太宰府市の文化財第25集	太宰府市教育委員会	1995
87	太宰府天満宮Ⅲ 太宰府市の文化財第26集	〃	1995
88	太宰府・佐野地区遺跡群Ⅴ-宮ノ本遺跡第72次調査- 太宰府市の文化財第27集	〃	1995
89	大宰府条坊跡Ⅶ 太宰府市の文化財第28集	〃	1995
90	大宰府条坊跡Ⅷ 太宰府市の文化財第29集	〃	1995
91	以来尺遺跡Ⅱ 筑紫野市文化財調査報告書第39集	筑紫野市教育委員会	1994

番号	書名	寄贈者	刊行年
92	富地原遺跡－福岡県宗像市富地原所在遺跡の発掘調査報告書－ 宗像市文化財調査報告書第40集	宗像市教育委員会	1995
93	長畑遺跡 飯塚市文化財調査報告書第18集	飯塚市教育委員会	1994
94	明星寺南地区遺跡群Ⅱ－明星寺遺跡虚空蔵堂の調査－ 飯塚市文化財調査報告書第19集	飯塚市教育委員会	1994
95	飯塚市歴史資料館年報13	飯塚市歴史資料館	1995
96	求菩提－修験道遺跡詳細分布調査報告書－ 豊前市文化財調査報告書第8集	豊前市教育委員会	1992
97	戸原鹿田遺跡 粕屋町文化財調査報告書第3集	粕屋町教育委員会	1991
98	長者原屋敷前遺跡 粕屋町文化財調査報告書第6集	〃	1994
99	大隈栄松遺跡 粕屋町文化財調査報告書第7集	〃	1994
100	内橋登り上り遺跡 粕屋町文化財調査報告書第8集	〃	1994
101	阿恵古屋敷遺跡 粕屋町文化財調査報告書第9集	〃	1995
102	カクチガ浦遺跡群Ⅲ－筑紫郡那珂川町大字松木所在遺跡群の調査－ 那珂川町文化財調査報告書第34集	那珂川町教育委員会	1994
103	中原塔ノ元遺跡－福岡県筑紫郡那珂川町中原所在遺跡群の調査－ 那珂川町文化財調査報告書第35集	〃	1995
104	山田西遺跡Ⅱ－福岡県筑紫郡那珂川町大字山田所在遺跡群の調査－ 那珂川町文化財調査報告書第36集	〃	1995
105	宮司第ヒタイ 津屋崎町文化財調査報告書第8集	津屋崎町教育委員会	
106	在自遺跡群Ⅰ 津屋崎町文化財調査報告書第9集	〃	1994
107	在自遺跡群Ⅱ 津屋崎町文化財調査報告書第10集	〃	1995
108	九州大学筑紫地区遺跡－九州大学埋蔵文化財調査報告－ 佐賀県	九州大学埋蔵文化財調査室	1995
109	吉野ヶ里 佐賀県文化財調査報告書第113集	佐賀県教育委員会	1992
110	東高木遺跡Ⅱ－4区の調査－ 佐賀市文化財調査報告書第57集	佐賀市教育委員会	1995
111	増田遺跡群Ⅲ－都留遺跡2区－ 佐賀市文化財調査報告書第58集	〃	1995
112	原ノ町遺跡Ⅱ 佐賀市文化財調査報告書第59集	〃	1995
113	友貞遺跡Ⅱ－7区の調査－ 佐賀市文化財調査報告書第60集	〃	1995
114	野田遺跡 佐賀市文化財調査報告書第61集	〃	1995
115	大西屋敷遺跡Ⅱ－2区の調査－ 佐賀市文化財調査報告書第62集	〃	1995
116	淵遺跡－1・2区の調査－ 佐賀市文化財調査報告書第63集	〃	1995
117	小溝上窯・年木谷3号窯 町内古窯跡群詳細分布調査報告書第7集	有田町教育委員会	1994
118	畦木場遺跡 平尾野遺跡 石川三長陣跡 福原長堯陣跡 九州電力玄海幹線新設に伴う発掘調査報告書	鎮西町教育委員会	1994
119	名護屋城跡周辺遺跡 鎮西町文化財調査報告書第13集	〃	1994
120	船石遺跡ⅡⅠ図録編 上峰村文化財調査報告書第6集	上峰町教育委員会	1988
121	船石遺跡ⅡⅡ本文編 上峰村文化財調査報告書第7集	〃	1989
122	坊所城跡 上峰町文化財調査報告書第10集	〃	1992
123	佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林 上峰町文化財調査報告書第11集	〃	1994
124	小瀬戸番所遺跡	長崎市埋蔵文化財調査会議	1995
125	稗田遺跡	大村市教育委員会・稗田遺跡調査会	1988
126	富松神社 大村市文化財調査報告第14号	大村市教育委員会	1990
127	寿古遺跡 大村市文化財調査報告第15号	〃	1991
128	円融寺 大村市文化財調査報告第16号	〃	1993
129	玖島崎古墳群 大村市文化財調査報告第17号	〃	1993
130	富の原遺跡・小佐古石棺墓群B地点Ⅱ 大村市文化財調査報告第17号	〃	1995
131	富の原遺跡－公共下水道事業に伴う緊急発掘調査－	大村市文化財保護協会	1995
132	寿古遺跡 熊本県	〃	1995
133	白鳥平B遺跡（九州縦貫自動車道（人吉～えびの）建設に伴う埋蔵文化財調査） 熊本県文化財調査報告書第142集	熊本県教育委員会	1994
134	大久保遺跡（七城町林原所在の縄文遺跡） 熊本県文化財調査報告書第142集	〃	1994

番号	書名	寄贈者	刊行年
135	無田原遺跡－県営農業農村整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－ 熊本県文化財調査報告書第148集	熊本県教育委員会	1995
136	竈門寺原遺跡 熊本県文化財調査報告書第149集	〃	1995
137	松岡屋敷跡・平山瓦窯跡 熊本県文化財調査報告書第150集	〃	1995
138	山川板碑群（県代行町道山川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査） 熊本県文化財調査報告書第151集	〃	1995
139	肥後古代の森整備事業概要	〃	1994
140	舟と馬と太陽と常設展示図録	熊本県文化財保護協会	1995
141	全国の装飾古墳Ⅰ 宮崎県の装飾古墳と地下式横穴墓	熊本県立装飾古墳館	1995
142	史跡人吉城跡Ⅴ（軍役敷跡・角櫓跡・多門櫓跡の発掘調査報告書）	人吉市教育委員会	1990
143	荒毛遺跡 人吉市詳細分布調査報告書	〃	1992
144	矢黒城跡 旅館建設に伴う緊急発掘調査報告書	〃	1992
145	史跡人吉城跡Ⅵ 西曲輪の地割確認発掘調査報告書	〃	1993
146	史跡人吉城跡Ⅶ 復元建造物・多門櫓・角櫓・長塀	〃	1994
147	史跡・塚原古墳群－保存整備事業報告書－	城南町教育委員会	1995
148	舞原西遺跡Ⅱ－城南町町民センター建設に伴う発掘調査－ 城南町文化財調査報告書第9集	〃	1995
大分県			
149	大分の装飾古墳	大分県教育委員会	1995
150	大分県内遺跡発掘調査概報3	〃	1995
151	埋蔵文化財年報3 大分県平成5（1993）年度版	〃	1995
152	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡－竹田市稲葉川河川改修工事に伴う発掘調査報告書－	〃	1995
153	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡（大分県竹田市稲葉川河川改修工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ）	大分県教育委員会	1995
154	森山遺跡（一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書6）	〃	1995
155	誠和神社裏遺跡・後藤家墓地・陣ヶ原辻原遺跡・高瀬深ノ田遺跡（一般国道210号線日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ）	〃	1995
156	縄文人の世界	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1994
157	大分県内石造文化財の現状と課題－保存のための基礎調査概報－	〃	1994
158	豊後國都甲荘の調査 本編1993年 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第11集	〃	1995
159	豊後国香々地荘2 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報	〃	1995
160	宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報	〃	1995
161	大分市歴史資料館年報（平成6年度）	大分市歴史資料館	1995
162	第14回特別展「城のある風景」 豊後府内城	〃	1995
163	棒垣遺跡・ホヤ池窯跡（1994年度中津地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ） 中津市文化財調査報告書第15集	中津市教育委員会	1995
164	戸上遺跡・小園遺跡・大塚遺跡－一般国道57号（竹田拡幅）－埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	竹田市教育委員会	1995
165	史跡岡城跡周辺遺跡群 竹田地区南部遺跡群Ⅵ	〃	1995
166	野田家屋敷跡（一般国道502号改良工事埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ）	〃	1995
167	史跡岡城跡Ⅸ 平成6年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	〃	1995
168	史跡岡城跡Ⅹ 平成6年度史跡岡城跡保存修理（災害復旧）事業報告書	〃	1995
169	都原縄文時代集落遺跡発掘調査報告書 九重町文化財調査報告書第20集	九重町教育委員会	1994
170	縄文時代の集落 都原遺跡	〃	1994
171	上津尾遺跡（国道10号線犬飼バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査概報（2））	犬飼町教育委員会	1995
172	香々地の遺跡Ⅰ－過ノ本遺跡・御霊遺跡・信重遺跡 香々地町文化財調査報告書第1集	香々地町教育委員会	1994
173	余瀬本家跡－香々地町立三重餅地保育所建設に伴う試掘調査報告書－ 香々地町文化財調査報告書第2集	〃	1995
174	牟礼越遺跡 大野郡三重町所在の旧石器・縄文時代遺跡	別府大学付属博物館	1995
175	別府大学付属博物館展示資料図録1995	〃	1995

番号	書名	寄贈者	刊行年
176	宮崎県 打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡 ー一般国道 218号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー	宮崎県教育委員会	1995
177	南中講地区遺跡・速日峰地区遺跡・妙見原遺跡・種畜牧 場千久遺跡・川久保遺跡・元野地区遺跡 ー平成6年度農業 基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告ー	〃	1995
178	下別府一字一石経塚 ー県道島ノ内一の宮線改良工事に伴う発掘調 査報告書ー	〃	1995
179	学頭遺跡・八兒遺跡 ー県道高岡・郡司分線道路改良事業に伴う発 掘調査報告書ー	〃	1995
180	寺ノ内遺跡 ー亀崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要 報告ー	日向市教育委員会	1995
181	田代地区遺跡群・上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡	えびの市教育委員会	1995
182	黒土田遺跡・赤木遺跡第2地点・上無田遺跡・平野遺跡 上麦野遺跡・浄土寺山古墳 ー平成6年度市内遺跡発掘調査事業 に伴う埋蔵文化財調査報告ー	延岡市教育委員会	1995
183	酒谷・吾田・油津・細田地区 ー日南市遺跡詳細分布調査報告書 II 日南市埋蔵文化財調査報告書第2集	日南市教育委員会	1993
184	飢肥城跡ー飢肥中学校体育館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー 日南市埋蔵文化財調査報告書第3集	〃	1994
185	平成6年度日南市遺跡発掘調査概報 日南市埋蔵文化財調査報 告書第4集	〃	1995
186	上講遺跡 日南市埋蔵文化財調査報告書第5集	〃	1995
187	上原遺跡(第2地点) 高木町文化財調査報告書第3集	高木町教育委員会	1994
188	上原第3遺跡 高木町文化財調査報告書第4集	〃	1995
189	橋上遺跡 高岡町埋蔵文化財調査報告書第7集	〃	1995
190	高岡町内遺跡Ⅲ 高岡町埋蔵文化財調査報告書第8集	〃	1995
191	蓮ヶ池横穴群	みやざき歴史文化館	1995
	鹿児島県		
192	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1995
193	釘田第1地点(鹿児島大学教養部)遺跡発掘調査報告書 ー平成6年度教育研究学内特別経費研究成果報告書ー	〃	1995

平成7年度(1995年度)
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成9年3月31日

編集 日田市教育委員会

発行 〒877 大分県日田市田島2-6-1

TEL 0973-23-3111

印刷 尾花印刷有限会社